

大高正人の建築作品の変遷に関する研究
－ PAU 概念の整理と図面分析を通して－

東京理科大学大学
工学部建築学科
坂牛研究室

4117069 高瀬 暁大

指導教員 坂牛 卓

Abstract

A STUDY ON CHANGES IN ARCHITECTURAL WORKS BY OTAKA MASATO

A research through organizing PAU concept and drawing analysis

Akihiro TAKASE

This study aims to clarify the realization method of PAU and the changes in the works by comparing Otaka's texts through the drawings of architectural works. This paper focuses on three analyses, and the first is to define each PAU realization method from Otaka's texts. The second is to select PAU realization works and analyze the changes in each method from the drawings. Furthermore, the result is compared with Otaka's texts. The third is to categorize the PAU integration method.

As a conclusion,

1. There are three realization methods for P, two for A, and two for U.
2. P is realized in 5 works, A has 16 works, and U has 13 works, and the changes are consistent with Otaka's texts.
3. Four types can be seen in the works in which PAU are integrated.

目次

梗概	p. 008
第1章 序論	p. 010
1. 1. 研究の背景	
1. 2. 研究の目的	
1. 3. 既往研究	
1. 4. 研究対象	
1. 5. 論文の構成	
第2章 分析方法	p. 018
2. 1. 分析方法	
2. 2. PAUに関する言説の整理（分析1）	
2. 3. PAUの実現作品の選定と図面分析（分析2）	
2. 4. PAUの統合作品の類型化（分析3）	
第3章 分析結果	p. 024
3. 1. PAUの実現手法の定義（分析1）	
3. 2. PAUの実現作品とその手法の変遷（分析2）	
3. 3. PAUの統合作品とその手法の変遷（分析3）	
第4章 結論及び考察	p. 040
4. 1. 結論	
4. 2. 考察	

参考文献

p. 044

謝辞

p. 046

データシート

p. 052

梗概

大高正人の建築作品の変遷に関する研究 —PAU概念の整理と図面分析を通して—

坂井研究室

4117069 高瀬 暁大

1. 研究の背景と目的

大高正人はPAUという独自の概念を提唱し、それぞれの達成と統合を目標に掲げていた。PAUとはP:Prefabrication=「建築の工業生産化という角度から近代の方向を見定める方法」、A:Art&Architecture=「建築をもっと素朴な生活用具および芸術品として見直してゆく方法」、U:Urbanism=「都市および建築群をとり上げて、ひろく社会的な現実から見てゆく方法」とされてきた^{註1)}。しかしこれらの説明は抽象的であり、具体的実現手法についてのまとまった記述はない。

そこで大高の言説と建築作品の図面との比較を通して、PAUという概念の具体的実現手法とその作品の変遷を明らかにすることを本論の目的とする。

2. 既往研究

大高正人の言説と建築作品を対象とし、「人工土地」と「群造形」の関係から大高の建築作品の特質を明らかにする研究^{註2)}はあるが、PAUの具体的な実現方法に関する研究はない。

3. 研究対象

表1に示す『新建築』(新建築社)、『建築』(青銅社)、『建築文化』(彰国社)、『都市住宅』(鹿島出版会)、『現代建築』(現代建築出版社)に掲載された大高正人に関する記事(70編)と、『メタポリズムとメタポリストたち(大高正人・川添登編)』、『現代日本建築家全集18』(栗田勇)、『建築家 大高正人の仕事』(荻原敬・松隈洋・中島直人)から得られる大高の言説および作品図面(29作品^{註3)})を対象とする。

4. 研究方法

本研究は以下の三つの分析から構成される。

4. 1. 言説の整理(分析1)

上述の文献からPAUに関する言説を収集し、P, A, Uそれぞれの実現手法を定義する。

4. 2. PAU実現作品と手法の変遷(分析2)

まず、4.1.で得られた定義を用いて、PAU概念の実現作品を選定する。次にP, A, Uそれぞれの実現手法がどの程度用いられているかを検証するために、Pの実現作品の中で使用されているPC材の数、Aの実現作品の中に見られる正方形平面の数、Uの実現作品の建築面積に対する傾斜屋根面積の割合、人工土地面積に対する公園・広場空間の割合を図面から抽出する。最後に図面分析の結果と大高の言説を比較する。

▼表1 研究対象の大高正人に関する記事の一覧(70編)

記事番号	記事名	掲載誌	掲載年	記事番号	記事名	掲載誌	掲載年	記事番号	記事名	掲載誌	掲載年
1	1962年12月号	片岡農協	26	1972年9月号	自動車労働教育センター	49	1970年3月号	広島県庁旧館			
2	1963年11月号	坂出人工土地	27	1973年5月号	広島県庁旧館	50	1970年3月号	日産車体工場体育館			
3	1964年5月号	日本海員組合本部会館	28	1973年10月号	岡谷公立小学校	51	1970年3月号	日産自動車工場体育館			
4	1964年12月号	自動車労働教育センター	29	1974年3月号	日本大学生産工学部図書館	52	1971年2月号	静岡農協センター			
5	1964年12月号	坂出人工土地	30	1974年10月号	千葉国立中央図書館	53	1971年2月号	自動車労働教育センター			
6	1965年9月号	花巻農協	31	1976年10月号	千葉国立美術館	54	1974年1月号	千葉国立美術館			
7	1966年7月号	北川川橋	32	1977年10月号	横浜新都市記念館	55	1974年1月号	日本大学生産工学部図書館			
8	1967年2月号	山内農協	33	1977年10月号	横浜新都市記念館	56	1976年10月号	「私たちの近代」			
9	1967年5月号	新製室	34	1980年1月号	群馬県立歴史博物館						
10	1967年5月号	千葉国立中央図書館	35	1982年7月号	三善町歴史民俗資料館	57	1967年2月号	山内農協			
11	1967年5月号	片岡農協	36	1984年12月号	福島国立美術館	58	1967年5月号	新製室			
12	1967年5月号	新製室	37	1984年12月号	神奈川県立近代美術館別館	59	1968年4月号	千葉国立中央図書館			
13	1967年5月号	千葉国立中央図書館	38	2003年12月号	三善町歴史民俗資料館	60	1968年10月号	千葉国立中央図書館			
14	1968年3月号	「多様な外部空間を求めて」	40			61	1972年9月号	自動車労働教育センター			
15	1968年3月号	「人工土地の構造をめぐって」	41			62	1980年1月号	群馬県立中央図書館			
16	1968年3月号	「人工土地の構造をめぐって」	42			63	1982年3月号	群馬県立中央図書館			
17	1968年3月号	「人工土地の構造をめぐって」	43			64	1982年3月号	群馬県立中央図書館			
18	1968年3月号	「人工土地の構造をめぐって」	44			65	1982年3月号	群馬県立中央図書館			
19	1968年3月号	「人工土地の構造をめぐって」	45			66	1982年3月号	群馬県立中央図書館			
20	1968年3月号	「人工土地の構造をめぐって」	46			67	1982年3月号	群馬県立中央図書館			
21	1968年3月号	「人工土地の構造をめぐって」	47			68	1982年3月号	群馬県立中央図書館			
22	1968年3月号	「人工土地の構造をめぐって」	48			69	1982年3月号	群馬県立中央図書館			
23	1970年4月号	広島県庁旧館	46			70	1976年12月号	「前に向かって後ろを見ること」			
24	1970年4月号	坂木県議会議事堂	47								
25	1971年2月号	静岡農協センター	48								

4. 3. PAUを統合した作品とその手法の変遷(分析3)

4.2.で選定した作品の中で、PAU概念の統合が行われている作品に着目し、その統合手法を類型化する。

5. 研究結果

5. 1. PAUの実現手法の定義(分析1)

図2に、言説分析によって明らかになったP, A, Uそれぞれの実現手法を示す。

・Pはプレキャストコンクリート(以下PC)によって実現される^{註4)}。具体的な手法は3つあり、グリッドシステム^{註5)}、空中架橋方式^{註5)}およびユニットシステム^{註6)}である。

・Aは群造形の考えによって実現される^{註7)}。具体的な手法は2つあり、立面におけるスラブの表現^{註8)}、正方形平面の反復^{註9)}である。

・Uは人間のための空間と環境を形成する建築の考えによって実現される^{註10)}。具体的な手法は2つあり、人工土地^{註11)}、傾斜屋根^{註12)}である。

5. 2. PAUの実現作品と手法の変遷(分析2)

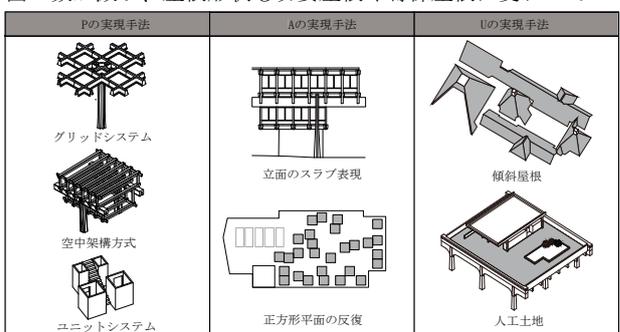
分析1から得られた定義を用いて、図面分析をした結果を表2と図3に示す。また、1966年におけるPC材の使用と1971年における切妻屋根の使用を転換点として、1961~1965年を初期、1966~1970年を中期、1971~1999年を後期と分類する。

5. 2. 1. Pの実現作品とその手法の変遷

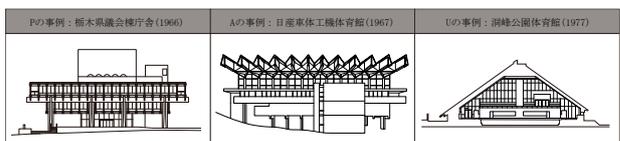
Pが実現されている作品は5つある。大高正人が求めたのは手軽な大量生産ではなく、長い歴史の中で蓄積してきたものと匹敵するような、高い質を持つ一品生産のプレファブの造形であった^{註13)}。実際に使用されるPC材の数は次第に減っていった。大高の予想をはるかに超えて、支配的になったプレファブの意味の変質に、絶望を感じていた^{註14)}。

5. 2. 2. Aの実現作品とその手法の変遷

Aが実現されている作品は16作品ある。初期の作品は平面形状が単純で、方形屋根が多い。一方で、後期には正方形平面の数が減り、屋根形状も切妻屋根や寄棟屋根に変わって



▲図2 言説から読み取れるPAUの実現手法



▲図3 作品事例

く。中期は正方形平面の数が最も多く、正方形平面の「組み合わせの多彩さ」が実現されている^{註9)}。

5. 2. 3. Uの実現作品とその手法の変遷

Uが実現されている作品は14作品ある。人工土地面積には大きな変化は見られなかったが、人工土地の上に広がる公園・広場空間の面積の割合は大きくなっている。坂出人工土地では、人工土地面積の半分が公園・広場として利用されたが広島基町団地では住棟から人工土地が切り離され、その8割以上が公園として利用された。また坂出人工土地の公園・広場空間は主に住人のための空間であったが、広島基町団地の公園空間は住人だけでなく、隣接する小学校や幼稚園の子どもや、近隣住人のための空間となっている。つまり社会活動の中心的場となる「人間のための空間」が実現されている^{註15)}。

傾斜屋根は初期と後期に多く採用されている。傾斜屋根の割合が多いものは、「風景になり得る建築」^{註16)}であると言える。

5. 3. PAUを統合した作品とその手法の変遷(分析3)

PAUの概念を統合した作品を表2に示す。また、P, A, Uの要素が二つ以上統合している12作品を4つの型に分類した。

① A+U(方形屋根)型

初期において、Aの正方形平面の反復とUの傾斜屋根の統合である方形屋根が採用されている3作品。

② P+A型

中期において、PのグリッドシステムとAの立面のスラブ表現の統合であるプレグリッドが採用されている3作品。

③ A+U(傾斜屋根)型

後期において、Aの正方形平面とUの傾斜屋根の結合である傾斜屋根が採用されている4作品。後期の正方形平面の数は、初期と中期に比べて少ない。

▼表2 対象事例とPAU概念の実現要素

No.	名称	年	Prefabrication		A&A/Architectures		Urbanism		PAUの統合					
			グリッド	空中架橋	ユニット	立面	正方形	傾斜屋根	人工土地	AU(方形)	AU(傾斜)	PA	PAU	
1	民間農協	1961												
2	全日本海員組合本部会館	1962												
3	自動車労働会館	1963												
4	花巻農協	1963												
5	坂出人工土地	1965												
6	千歳農文化会館	1965												
7	立川紡績園	1965												
8	山内農協	1965												
9	新島農協	1965												
10	牧之原サーブスエア	1965												
11	新野家	1966												
12	千歳農立中央図書館	1966												
13	栃木県庁舎補修棟	1966												
14	南郷農協	1967												
15	日産車体工場体育館	1967												
16	広島基町団地	1968												
17	日産自動車部品工場体育館	1968												
18	群馬県立センター	1968												
19	自動車労働センター	1969												
20	日本大学生産工学部図書館	1970												
21	千歳農立美術館	1971												
22	岡谷市立中央小学校	1972												
23	浜須賀新市記念館	1974												
24	群馬県立歴史博物館	1975												
25	岩崎公園体育館	1977												
26	群馬県立美術館	1980												
27	三浦県立美術館新館	1983												
28	神奈川県立近代美術館別館	1982												
29	三島町交流館まほら	1999												

脚注： 註1)「私は若い人たちと一緒に、新しい事務所をもって出発した。(中略)ひらく、ならべてしまえば、『都市および建築群をとり上げて、ひろく社会的な現実から見てゆく方法』『建築の工業生産化という角度から近代の方向を見定める方法』『建築をもっと素朴な生活用具および芸術品として見直してゆく方法』の3つである。」(『新建築』1961年6月号) 註2) 林雄三 他『人工土地』と『群造形』の関係にみる大高正人の建築作品の特質に関する研究『日本建築学会近畿支部研究報告集』2008年5月 p. 817 ~ 820 註3)『新建築』『建築文化』『都市住宅』に掲載された作品のなかで、研究に必要な図面の揃う29作品を対象とする。 註4)「大工棟梁は、加工場で材木を寸分違わぬ長さに切りそろえ、継ぎ手、仕口という美しく精妙なジョイントを加工して、工事現場に持ち込む。(中略)その美しさ、技術の高さを目標に、これを近代のプレキャストコンクリートで実施しようと考えた。」(大高正人・川添登編『メタボリズムとメタボリストたち』 註8)『PCコンクリート架構におけるふたつの試み ①プレグリッド方式 ②空中架橋方式』(『新建築』1968年10月号) 註6)「プレキャストコンクリートによるプレハブ化が、基町高層住宅の大きな特徴のひとつとなっている。鉄骨梁の耐火被覆材バルコニー、倉庫、浴室、便所、界壁などがPCによるユニット製品として工場生産されている。」(『建築』1970年3月号) 註7)「これ(群造形)はまた量産された部品がその組み合わせの多彩さによって、自由な空間をつくり出す、未来の建築造形の理想にも通じていると思うのである。」(『新建築』1968年10月号) 註8)「いっどこに増築するかわからない自由なスラブがそのまま建築の表現であるような新しい秩序(群造形)を表現したいと考えたのである。」(『新建築』1968年10月号) 註9)「単純なピースを組み合わせて、その組み合わせの形態の自由度を出来るだけ多様にするという方法」(栗田勇『現代日本建築家全集18』) 註10)「私の言うUrbanismは、日本の農村や都市と取り組み人々と交わりながら土着の香りを持った何かを構築することであり、文明や文化の一片を構成する環境をつくることになるのである。」(『現代建築』1976年12月号) 註11)「人工土地が目的ではなく、人間のための新しい都市空間の創造が目標である。」(『新建築』1968年3月号) 註12)「平安時代の屋根が、瓦で重く美しくあったからと言って、まったく同じように、ただむやみに重く造る人々は馬鹿げている。現代の技術、現代の状況の中で、これら独特なものを、創造的に継承しなければならない。」(『現代建築』1976年12月号) 註13)「職人や棟梁の頭の中に蓄積されたものは大へんものがあると思うんです。もしプレハブでつくり同じものをつくとすれば、その50倍とか100倍くらいかかればそれでもそれに匹敵するものはつくれない。(中略)私は遊戯的に一品生産のプレハブができないものかということを事務所の中で聞いています。」(『新建築』1975年5月号) 註14)「あつぱいプレハブ住宅が郊外を下品にしたあげたのも、物事を半面しか見ないエクスパートの真面目な努力の所産なのである。註15)「都市的施設がこのように団地の中心的な位置にとられたオープンスペースに計画的、集中的に配置できることは、(中略)団地住民のお互いの出合いの場を提供することになり、(中略)このオープンスペースは基町団地の社会的活動の中心的場となり、核的存在となるだろう。」(『建築』1970年3月号) 註16)「われわれに感動を与えた昔の民家は現代の比へてはるかに貧乏なときに、(中略)中も技術もたかくその地域にあらん限りの力を集めて、えらい苦心をしてくつったわけです。われわれもそのような風景になり得る建築をつくっていかねばなりません。」(『新建築』1983年7月号) 参考文献： 1. 栗原敬・松隈洋・中島直人『建築家 大高正人の仕事』エクスナレッジ(2014) 2. 栗田勇『現代日本建築家全集18』三一書房(1970) 3. 大高正人・川添登『メタボリズムとメタボリストたち』美術出版社(2005) 4. 内井昭蔵『モダニズム建築の軌跡-60年代のヴラウゲルヤド-』INAX出版(2000)

④ P+A+U型

29作品において唯一PAUの統合が見られた作品。Pはユニットシステム、Aは正方形平面の反復、Uは人工土地と傾斜屋根が実現されている。

PAUが統合された①~④から、作品全体の変遷を見ると、初期は正方形平面の反復が見られ、単純な平面形態と方形屋根による稜線の統合が多用されていた。中期に入ってプレファブによる組み合わせの多彩さが重要視されるようになった。後期には複雑な形態と傾斜屋根の統合が増えてきた。

6. 結論

本研究では以下のことが明らかになった。

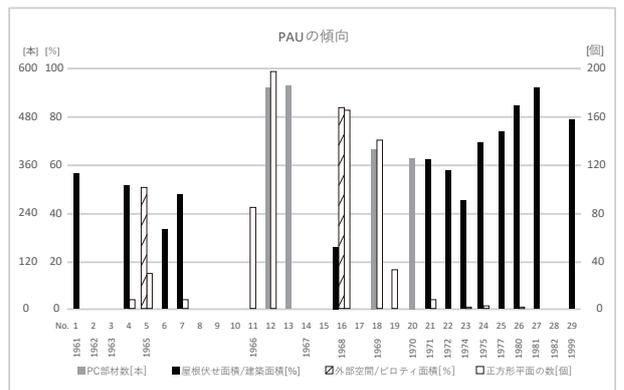
(1) PAUのPはグリッドシステム、空中架橋方式、ユニットシステムの3つによって実現された。Aは立面におけるスラブの表現、正方形平面の反復の3つによって実現された。Uは人工土地と傾斜屋根の2つによって実現された。

(2) Pの手法であるプレファブの造形は、高い質を持つ一品生産が目指されたが、次第に部材数は減っていった。Aの手法である正方形平面は中期に多く採用されており、この時期の作品において「組み合わせの多彩さ」が実現している。またUの手法である人工土地によって「人間のための空間」を表している。また傾斜屋根の割合が多いものは、「風景になり得る建築」であると言える。

(3) 大高正人のPAUの統合の手法は大きくA+U(方形屋根)型、P+A型、A+U(傾斜屋根)型、A+P+U型の4つに分類することができる。また初期は正方形平面の反復が見られ、次第に組み合わせの多彩さが見られるようになり、最終的には複雑な平面形状と屋根形状へと移行した。

7. まとめ

PAU概念についての言説の整理とPAUの実現・統合の手法の分析により、P, A, Uそれぞれの手法の変遷およびPAUの統合の変遷を追った。その結果、7つの具体的な実現手法と4つの統合手法の類型があることを明らかにした。



▲図3 図面分析の結果

第 1 章

序論

1. 1. 研究の背景

大高正人は都市と建築を包括的にとらえ、建築設計と都市計画の両分野において功績を残した。その大高正人は自身の建築事務所設立の際に、PAUという独自の概念を提唱し、それぞれの達成と統合を目標に掲げていた。PAUとはP:Prefabrication=「建築の工業生産化という角度から近代の方向を見定める方法」、A:Art&Architecture=「建築をもっと素朴な生活用具および芸術品として見直してゆく方法」、U:Urbanism=「都市および建築群をとり上げて、ひろく社会的な現実から見てゆく方法」とされてきた。

“ 東京文化会館の仕事が一段落した今年の3月1日から、私は若い人たちと一緒に、新しい事務所をもって出発した。(中略)早速そこで手がけている3つの方法についてのべて見たいと思う。

ひらたく、ならべてしまえば、「都市および建築群をとり上げて、広く社会的な現実から見てゆく方」「建築の工業生産化という角度から近代の方向を見定める方法」「建築をもっと素朴な生活用具および芸術品として見直してゆく方法」の3つである。”

養原敬・松隈洋・中島直人著『建築家 大高正人の仕事』(エクスマレッジ2014年266頁)

しかしこれらの説明は抽象的であり、具体的実現手法やどの作品において実現されているかのまとまった記述はない。

1. 2. 研究の目的

本研究では、大高のPAUに関する言説を整理し、建築作品の中でどのように現れているかを明確にすることで、PAUという概念の具体的手法を定義することを第一の目的とする。また、建築作品の図面からP, A, Uそれぞれの要素がどの程度採用されているかを分析し、大高の言説と比較・検討することで、PAUの実現手法の変遷を明らかにすることを第二の目的とする。最後にPAUの統合が行われている作品に着目し、その統合手法を類型化することを第三の目的とする。

1. 3. 既往研究

先行する大高正人の建築作品および言説を扱った研究としては、研究に応じて対象作品を絞っているものと、言説を絞っているものが見られた。その前者の例として『大高正人の千葉文化の森における外構計画に関する研究^{註1)}』『大高正人の農協建築に関する研究^{註2)}』が挙げられる。これらは千葉文化の森における「人間的空間」と「機械的空間」の関係や、農協建築の建築プロセスと平面構成についての分析を行うものであった。後者の例としては『「人工土地」と「群造形」の関係に見る大高正人の建築作品の特質に関する研究^{註3)}』『大高正人の記述における「都市」の言説において^{註4)}』『大高正人の記述における近代の「都市」について^{註5)}』が挙げられる。これらは「人工土地」と「群造形」の関係にみる大高正人の建築作品の特性を明らかにするものや、「都市」という言説に着目し、大高正人が都市環境や「都市」をどのようにとらえていたかを考察するものであった。本研究では、1961年から1999年に建築誌に取り上げられた事例を対象とし、PAU概念の具体的手法を明らかにし、実現作品と統合作品の変遷を明らかにする点で既往研究とは異なる独自性がある。

1. 4. 研究対象

『新建築』（新建築社）、『建築』（青銅社）、『建築文化』（彰国社）、『都市住宅』（鹿島出版会）、『現代建築』（現代建築出版社）に掲載された大高正人に関する記事 70 編と、『メタボリズムとメタボリストたち（大高正人・川添登編）』、『現代日本建築家全集 18（栗田勇）』、『建築家 大高正人の仕事（蓑原敬・松隈洋・中島直人）』から得られる大高の言説および建築作品 29 作品を対象とする。

▼ table. 1. 言説リスト

	新建築		25	1972年9月号	自動車労連教育センター	49	1970年3月号	広島基町団地
1	1962年12月号	片岡農協	26	1973年5月号	広島基町団地	50	1970年3月号	日産車体工機体育館
2	1963年11月号	坂出人工土地	27	1973年10月号	岡谷市立湊小学校	51	1970年3月号	日産自動車追浜工場体育館
3	1964年5月号	日本海員組合本部会館	28	1974年3月号	日本大学生産工学部図書館	52	1971年2月号	静岡農協センター
4	1964年12月号	自動車労連会館	29	1974年10月号	千葉県立中央図書館	53	1971年2月号	自動車労連教育センター
5	1964年12月号	坂出人工土地	30	1976年10月号	千葉県立美術館	54	1974年1月号	千葉県立美術館
6	1965年9月号	花泉農協	31	1976年10月号	筑波新都市記念館	55	1974年1月号	日本大学生産工学部図書館
7	1966年7月号	立川幼稚園	32	1977年10月号	筑波新都市記念館	56	1976年10月号	「私たちの近代」
8	1967年2月号	山内農協	33	1980年1月号	群馬県立歴史博物館		建築文化	
9	1967年5月号	聖賢堂	34	1983年7月号	三春町歴史民俗資料館	57	1967年2月号	山内農協
10	1967年5月号	千葉県立中央図書館	35	1984年10月号	福島県立美術館	58	1967年5月号	聖賢堂
11	1967年5月号	片岡農協	36	1984年12月号	神奈川県立近代美術館別館	59	1968年4月号	千葉県立中央図書館
12	1967年5月号	新居浜農協	37	2003年12月号	三春町交流館まほら	60	1968年10月号	千葉県立中央図書館
13	1967年5月号	千葉県文化会館		建築		61	1972年9月号	自動車労連教育センター
14	1968年3月号	坂出人工土地	38	1962年12月号	片岡農協	62	1973年10月号	岡谷市立湊小学校
15	1968年3月号	日産車体工機体育館	39	1967年2月号	山内農協	63	1974年3月号	日本大学生産工学部図書館
16	1968年3月号	「多彩な外部空間を求めて」	40	1967年5月号	花泉農協	64	1976年10月号	千葉県立美術館
17	1968年3月号	「人工土地の構造メモ」	41	1967年5月号	聖賢堂	65	1976年10月号	筑波新都市記念館
18	1968年6月号	牧の原サービスエリア	42	1967年5月号	千葉県立中央図書館	66	1980年1月号	群馬県立歴史博物館
19	1968年10月号	千葉県立中央図書館	43	1967年5月号	新居浜農協	67	1982年3月号	洞峰公園体育館
20	1969年4月号	牧の原サービスエリア	44	1967年5月号	山内農協	68	1983年7月号	三春町歴史民俗資料館
21	1969年4月号	南郷農協	45	1967年6月号	立川幼稚園		都市住宅	
22	1969年6月号	広島基町団地	46	1968年3月号	日産車体工機体育館	69	1973年7月号	「<超建築>への挑戦」
23	1970年4月号	栃木県議会棟庁舎	47	1968年10月号	千葉県立中央図書館		現代建築	
24	1971年2月号	静岡農協センター	48	1970年3月号	栃木県議会棟庁舎	70	1976年12月号	「前に向かって後ろを見ること」

▼ table. 1. 建築作品リスト

1	片岡農協	11	聖賢堂	21	千葉県立美術館
2	全日本海員組合本部会館	12	千葉県立中央図書館	22	岡谷市立湊小学校
3	自動車労連会館	13	栃木県庁舎議会議棟	23	筑波新都市記念館
4	花泉農協	14	南郷農協	24	群馬県立歴史博物館
5	坂出人工土地	15	日産車体工機体育館	25	洞峰公園体育館
6	千葉県文化会館	16	広島基町団地	26	福島県立美術館
7	立川幼稚園	17	日産自動車追浜工場体育館	27	三春町歴史民俗資料館
8	山内農協	18	静岡農協センター	28	神奈川県立近代美術館別館
9	新居浜農協	19	自動車労連研修センター	29	三春町交流館まほら
10	牧の原サービスエリア	20	日本大学生産工学部図書館		

1. 4. 研究対象

▼ table. 1. 建築作品リスト

1. 片岡農協



2. 全日本海員組合本部会館



3. 自動車労連会館



4. 花泉農協



5. 坂出人工土地



6. 千葉県文化会館



7. 立川幼稚園



8. 山内農協



9. 新居浜農協



10. 牧之原サービスエリア



11. 聖賢堂



12. 千葉県立中央図書館



13. 栃木県議会棟庁舎



14. 南郷農協



15. 日産車体工機体育館



16. 広島基町団地



17. 日産自動車追浜工場体育館



18. 静岡農協センター



19. 自動車労連教育センター



20. 日本大学生産工学部図書館



21. 千葉県立美術館



22. 岡谷市立湊小学校



23. 筑波新都市記念館



24. 群馬県立歴史博物館



25. 洞峰公園体育館



26. 福島県立美術館



28. 三春町歴史民俗資料館



28. 神奈川県立近代美術館別館

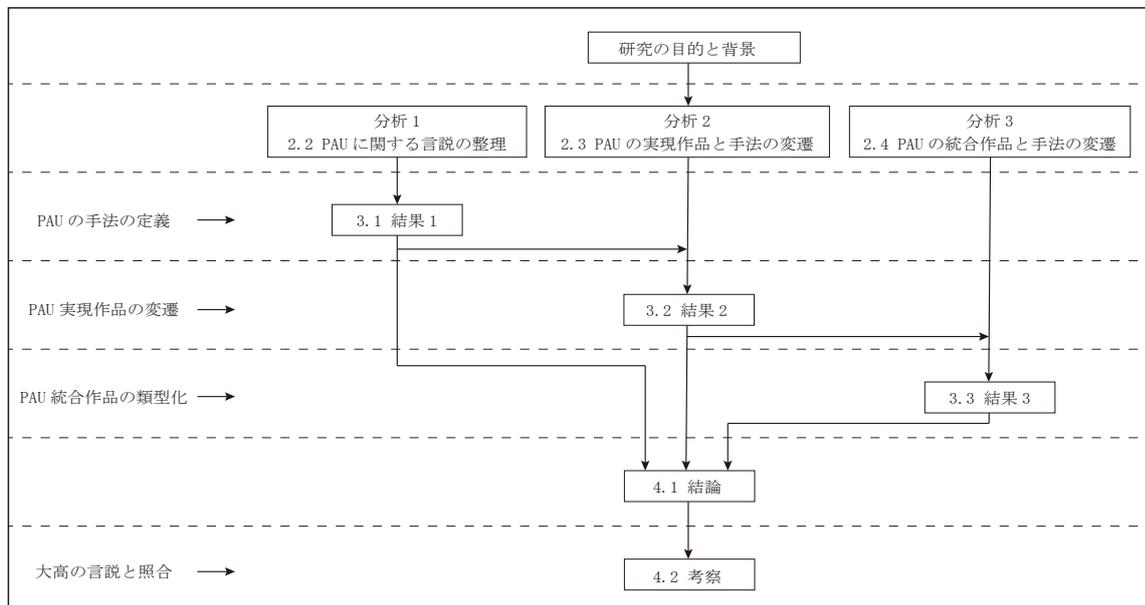


29. 三春町交流館まほら



1. 5. 論文の構成

本研究では以下のように構成されている。第1章で背景、目的、既往研究、研究対象、本研究の構成について述べ、第2章では、PAUに関する言説の整理、PAU 実現作品の選定と図面分析、PAU 統合作品の類型化の3つを行う。第3章では、3つの分析から、PAUの実現手法の定義、PAUの実現作品とその変遷、PAUの統合作品とその類型を得る。第4章ではそれぞれの結果から結論を導き、結論と大高の言説とを比較することで考察をする。本研究の構成を (fig. 2.) に示す。



▲ fig. 2. 本論の構成

第 2 章

分析方法

2. 1. 分析方法

本研究では、まず PAU に関する言説を収集し、PAU 概念の実現手法を定義する。その定義を用いて PAU 概念の実現作品を選定する。次に P, A, U それぞれの実現手法の変遷を明らかにするために図面分析を行う。最後に PAU 概念の統合が行われている作品に注目し、その統合手法を類型化する。以上のことから本研究では以下の 3 つの分析を行う。

- ① PAU に関する言説の整理（分析 1）
- ② PAU の実現作品の選定と図面分析（分析 2）
- ③ PAU の統合作品の類型化（分析 3）

2. 2. PAUに関する言説の整理（分析1）

P, A, Uに関する言説はあるが、その説明は非常に抽象的で、具体的な手法に関するまとまった言説は存在しない。

“ そのひとつは、建築群を都市の機能や環境からもう一度見直してみることに、そして同じように建築を農村や自然の環境からもう一度見直し、再構築するということであった。（中略）2番目の目標は、建築生産の近代化・工業化あるいは建築のプレファブリケーションとしっかり取り組んでゆきたいということであった。（中略）3番目の目標は、建築を芸術的な創造物として試みることができるか、あるいは芸術の一部として考えたときにはいあつたいどうあらねばならないか、ということであった。”

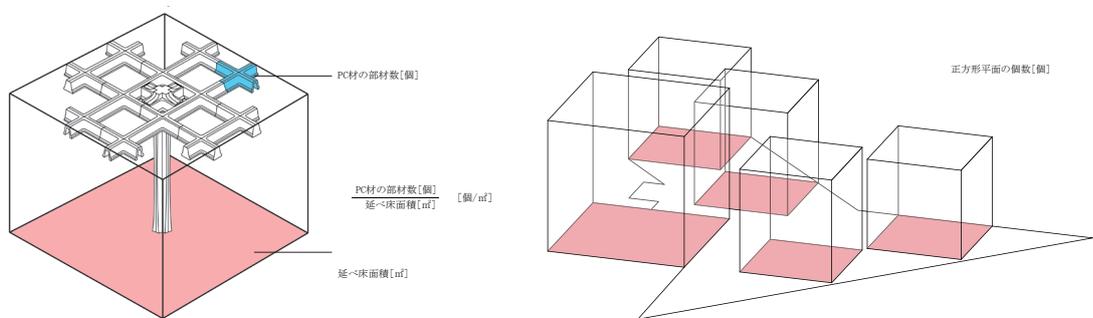
『新建築』（新建築社1965年9月号）

そこで研究対象である文献からPAUに関する言説を収集し、P, A, Uそれぞれの実現手法を定義する。PAUに関しての言説はまとめられてはいないものの、個々に説明がなされている言説が散見されるので、それらを集め出し、PAU概念の実現手法を整理する。

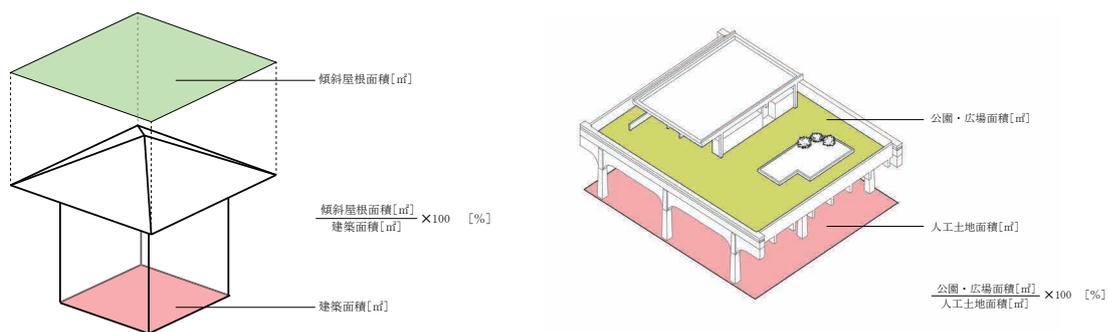
2. 3. PAU の実現作品の選定と図面分析（分析 2）

分析 1 で得られた定義を用いて、PAU 概念の実現作品を選定する。次に P, A, U それぞれの実現手法がどの程度用いられているかを検証するために、以下の 4 つを図面から抽出する。

- ① P の実現作品の中で延べ床面積に対する使用されている PC 材の数
- ② A の実現作品の中に見られる正方形平面の数
- ③ U の実現作品の建築面積に対する傾斜屋根面積の割合
- ④ U の実現作品の人工土地面積に対する公園・広場面積の割合



▲ fig. 5. 流動性分析方法図



2. 4. PAU の統合作品の類型化（分析 3）

分析 2 で選定した作品の中で、PAU 概念の統合が行われている作品に着目する。大高は PAU 概念のそれぞれを実現するだけでなく、PAU 概念の統合をより高い目標として掲げていた。

“ この目標 (PAU) をわれわれは個々のものとして解決するだけでなく、3 つを合わせたひとつのものとして、止揚する念願を立てたのであった。”

『新建築』（新建築社 1965 年 9 月号）

そこで二つ以上の PAU 概念が達成されている作品の中から、PAU 概念の統合手法を類型化する。また、その手法を俯瞰的に見ることで、その変遷を探る。

第 3 章

分析結果

3. 1. PAU の実現手法の定義（分析 1）

・P はプレキャストコンクリートによって実現される。

“ 大工棟梁は、加工場で材木を寸分違わぬ長さに切りそろえ、継ぎ手、仕口という美しく精妙なジョイントを加工して、工事現場に持ち込む。（中略）その美しさ、技術の高さを目標に、これを近代のプレキャストコンクリートで実施しようと考えた。”

大高正人・川添登編『メタポリズムとメタポリストたち』（美術出版社 2005 年 56 頁）

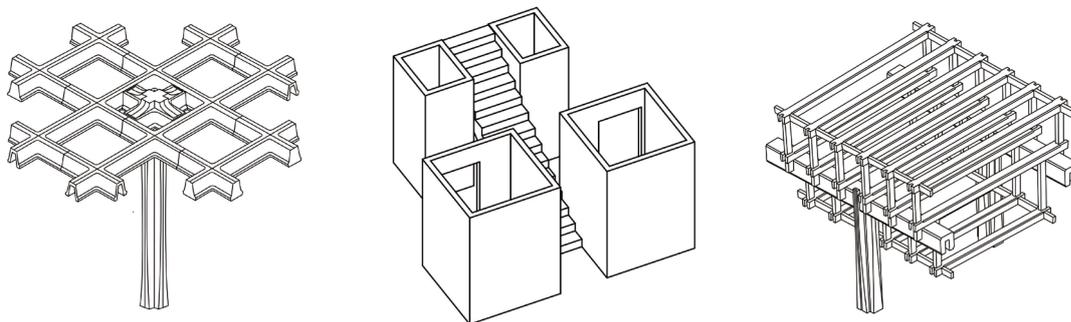
その具体的な手法は 3 つあり、グリッドシステム、空中架構方式およびユニットシステムである。図にその実現手法を示す。

“ PC コンクリート架構におけるふたつの試み ①プレグリッド方式 ②空中架構方式”

『新建築』（新建築社 1968 年 10 月号）

“ プレキャストコンクリートによるプレハブ化が、基町高層住宅の大きな特徴のひとつとなっている。鉄骨梁の耐火被覆材バルコニー、倉庫、浴室、便所、界壁などが PC によるユニット製品として工場生産されている。”

『建築』（青銅社 1970 年 3 月号）



3. 1. PAU の実現手法の定義（分析1）

・A は群造形の考えによって実現される。

“ これ（群造形）はまた量産された部分とその組み合わせの多彩さによって、自由な空間をつくり出す、未来の建築造形にも通じていると思うのである。”

『新建築』（新建築社 1968 年 10 月号）

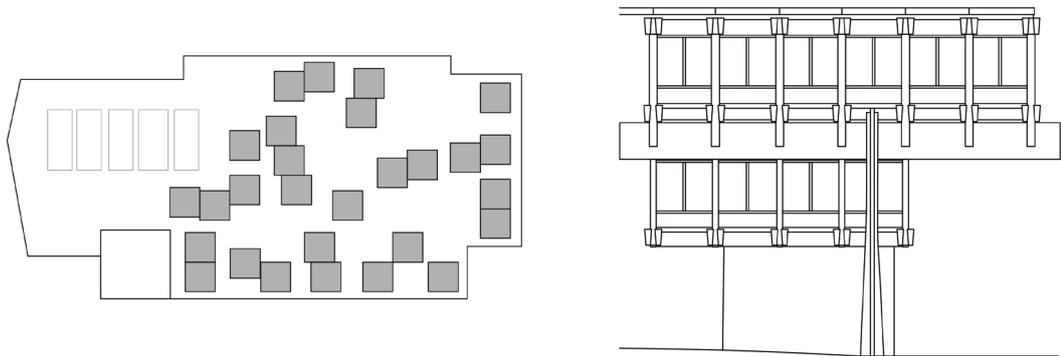
その具体的な手法は2つあり、立面におけるスラブ表現、正方形平面の反復である。図にその実現手法を示す。

“ いっどこに増築するかわからない自由なスラブがそのまま建築の表現であるような新しい秩序（群造形）を表現したいと考えたのである。”

『新建築』（新建築社 1968 年 10 月号）

“ 単純なピースを組み合わせ、その組み合わせの形態の自由度をできるだけ多様にする方法”

栗田勇『現代日本建築家全集 18』（三一書房 1970 年）



3. 1. PAU の実現手法の定義（分析1）

・Uは人間のための空間と環境を形成する建築の考えによって実現される。

“ 私の言う Urbanism は、日本の農村や都市を取り組み人々と交わりながら土着の香りを持った何ものかを構築することであり、文明や文化の一片を構成する環境をつくることになるのである。”

『現代建築』（現代建築出版社 1976 年 12 月号）

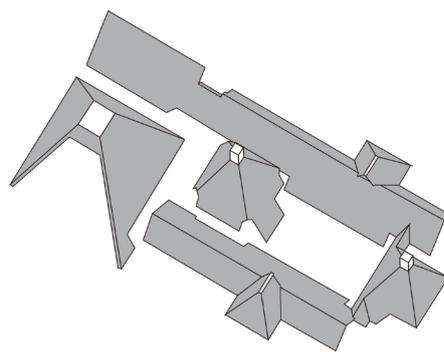
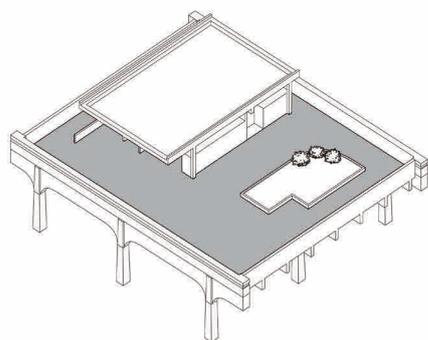
その具体的な手法は2つあり、人工土地、傾斜屋根である。図にその実現手法を示す。

“ 人工土地が目的のではなく、人間のための新しい都市空間の創造が目標なのである。”

『新建築』（新建築社 1968 年 3 月号）

“ 平安時代の屋根が、瓦が重くて美しいからと言って、まったく同じように、ただやみくもに重く造る人々は馬鹿げている。現代の技術、現代の状況の中で、これら独特なものを、創造的に継承しなければならない。”

『現代建築』（現代建築出版社 1976 年 12 月号）



3. 2. PAU の実現作品とその変遷（分析 2）

分析 1 から得られた定義を用いて、PAU の概念が実現されている作品を選定し、表 2 に示す。また、1966 年における PC 材の使用と 1971 年における切妻屋根の使用を転換点として、1961 ～ 1965 年を初期、1966 ～ 1970 年を中期、1971 ～ 1999 年を後期と分類する。

	No.	名称	年	Prefabrication			Art&Architecture		Urbanism	
				グリッド	空中架構	ユニット	立面	正方形	傾斜屋根	人工土地
初期	1	片岡農協	1961						○	
	2	全日本海員組合本部会館	1962							
	3	自動車労連会館	1963							
	4	花泉農協	1963					○	○	
	5	坂出人工土地	1965					○		○
	6	千葉県文化会館	1965						○	
	7	立川幼稚園	1965					○	○	
	8	山内農協	1965							
	9	新居浜農協	1965							
	10	牧之原サービスエリア	1965							
中期	11	聖賢堂	1966					○		
	12	千葉県立中央図書館	1966	○			○	○		
	13	栃木県庁舎議会議棟	1966		○		○			
	14	南郷農協	1967							
	15	日産車体工場機体育館	1967				○			
	16	広島基町団地	1968			○		○	○	○
	17	日産自動車追浜工場体育館	1968				○			
	18	静岡農協センター	1969	○			○	○		
	19	自動車労連研修センター	1969					○		
	20	日本大学生産工学部図書館	1970		○		○			
後期	21	千葉県立美術館	1971					○	○	
	22	岡谷市立湊小学校	1972						○	
	23	筑波新都市記念館	1974					○	○	
	24	群馬県立歴史博物館	1975					○	○	
	25	洞峰公園体育館	1977						○	○
	26	福島県立美術館	1980					○	○	
	27	三春町歴史民俗資料館	1981						○	
	28	神奈川県立近代美術館別館	1982							
	29	三春町交流館まほら	1999						○	

PC 材の使用 (1966)

傾斜屋根の使用 (1971)

3. 2. PAU の実現作品とその手法の変遷（分析 2）

P が実現されている作品は以下の 5 作品である。

No. 12 千葉県立中央図書館

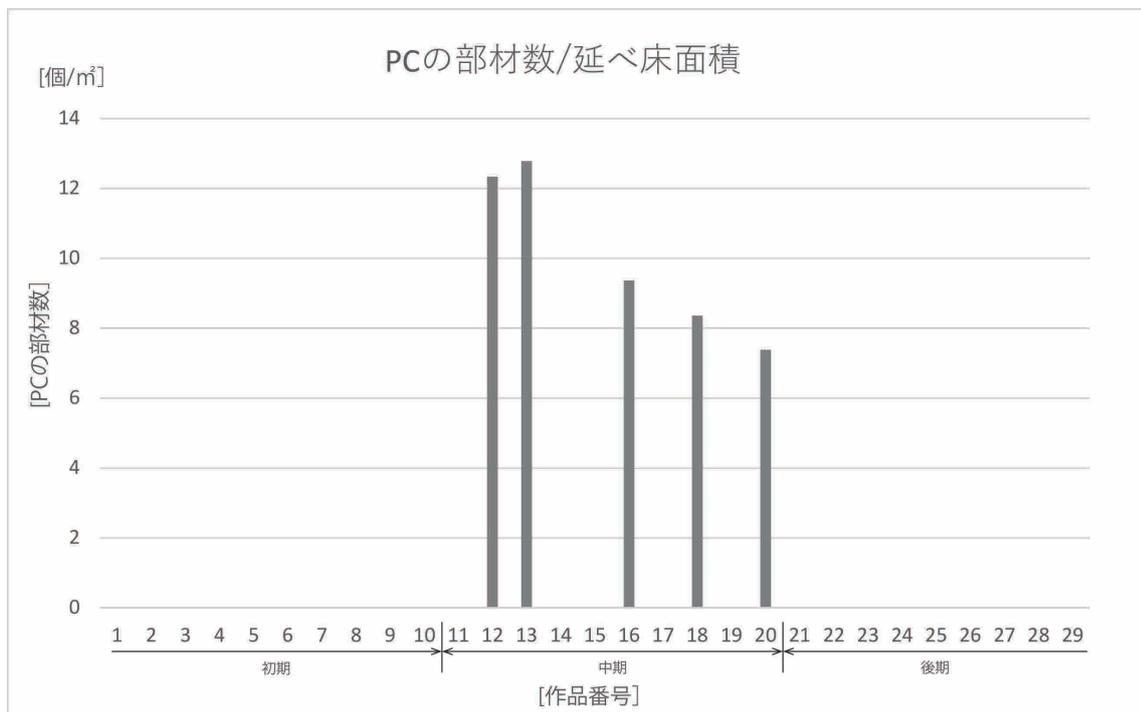
No. 13 栃木県議会棟庁舎

No. 16 広島基町団地

No. 18 静岡農協センター

No. 20 日本大学生産工学部図書館

また、呼べ床面積あたりに使用される PC の部材数を矩計図から数えると、次第に減っていることがわかる。



大高はプレキャストコンクリートを使用することで、より多くの人に、より高い品質のものを、より安く提供することを目標とした。建築における品質とは部品の品質であると同時に、環境の品質でなければならないとした。

“ われわれがプレファブリケーションに一つの焦点を当てたのは、このような現実を踏まえ、理想をわれわれのものにしたかったからである。『より良いものを安く大量に』ということは建築を安く大量に供給し、しかも造形的な感動を与える水準にまで高め、都市設計の戦略を内包した製品でなければならないということである。(中略)一つの部品がどれだけ多彩な空間をつくれるか、どれだけ多彩な機能に対応できるか、というような問題設定が中心になっている。”

養原敬・松隈洋・中島直人著『建築家 大高正人の仕事』(エクスナレッジ2014年275頁)

単なる大量生産の手段としてではなく、建築の造形表現として人々に感動を与える水準にまで高める必要があるとし、大量生産された部材を用いて「組み合わせの多彩さ」が目指された。またそこから群造形の考えへと発展していく。

“ また量産された部品がその組み合わせの多彩さによって、自由な空間をつくり出す、未来の建築造形の理想にも通じていると思うのである。”

『新建築』(新建築社1968年10月号)

ところが、建設産業の発展によってプレファブの意味が、大高の理想とは相反する方向へと変質していく。その変化に大高は絶望を感じていた。

“ 『近代化とは合理化のことであり、より多くの利潤を生むための手段である』というようにこの原則を読み替えてしまう。あるいはまた、部品の品質や部品化の程度が技術の水準であると考えてしまう。(中略)このようにして、物事の半面しか見ない人々の手であたり前の原則が次々に破られていく。

(中略)私は逆説的に一品生産のプレハブができないものかということを事務所の中でいっています。ということはプレハブはまだまだほんとうに大量につくれるほどすぐれたものはつけれない。まだ実験もできていないし、時間も十分には持っていないということですね”

養原敬・松隈洋・中島直人著『建築家 大高正人の仕事』(エクスナレッジ2014年281頁)

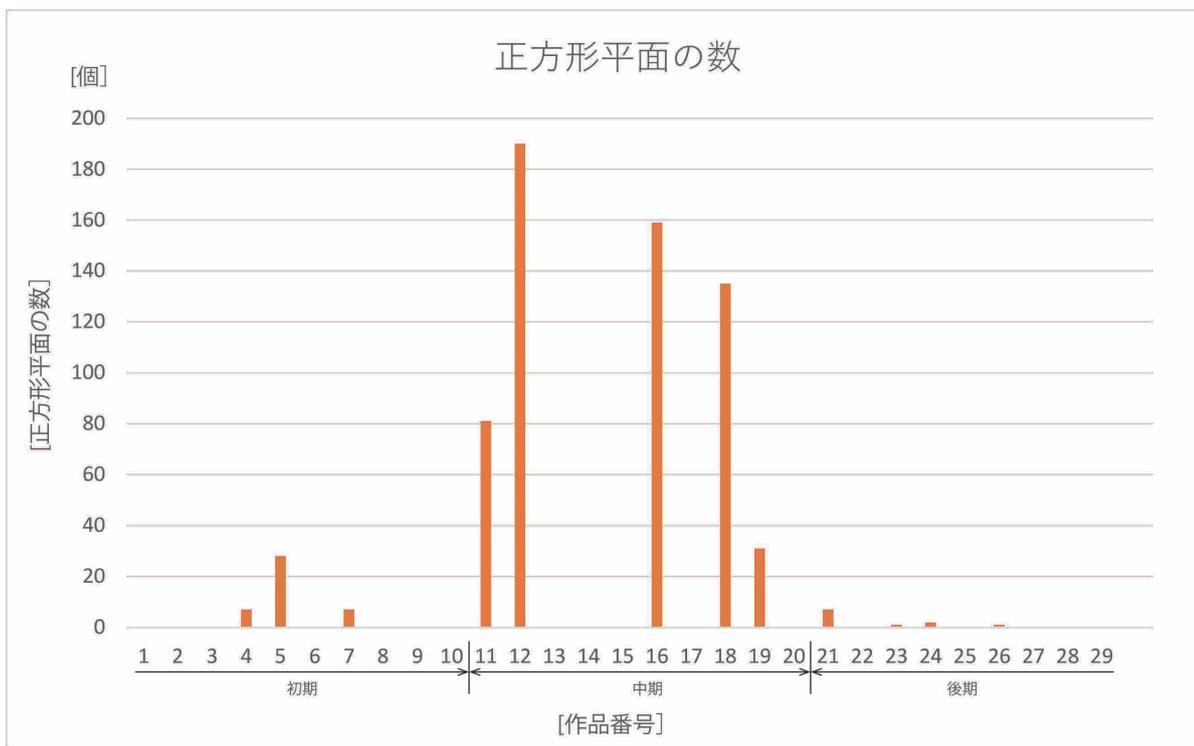
実際にPの実現作品は5つにとどまり、1970年の作品を最後に、それ以降の作品にプレキャストコンクリートを大々的に使用することはなくなった。

3. 2. PAU の実現作品とその手法の変遷（分析2）

A が実現されている作品は 16 作品あり、その中で正方形平面が採用されている作品は以下に示す 12 作品である。

- | | |
|------------------|------------------|
| No. 4 花泉農協 | No. 18 静岡農協センター |
| No. 5 坂出人工土地 | No. 19 自動車労連センター |
| No. 7 立川幼稚園 | No. 21 千葉県立美術館 |
| No. 11 聖賢堂 | No. 23 筑波新都市記念館 |
| No. 12 千葉県立中央図書館 | No. 24 群馬県立歴史博物館 |
| No. 16 広島基町団地 | No. 26 福島県立美術館 |

また、正方形平面の数を数えると、初期と後期に比べて中期は正方形平面の数が多いことがわかる。



大高の初期の作品は、正方形平面の反復が採用されているだけでなく、中期や後期に比べて平面形状が単純なものが多い。したがって屋根形状も陸屋根か方形屋根の作品が多い。

“ 二戸を一つの単位とした住居単位を考え、その単位を人工土地にちょうど積み木を並べたり積み重ねたりするように配置することによって、大小様々な変化に富んだ外部空間を創り出すことに成功している。”

栗田勇『現代日本建築家全集 18』（三一書房 1970 年 119 頁）

単純な平面形状の組み合わせによって変化に富んだ空間の創造が大高の初期からの目標であった。一方、後期の作品は正方形平面が少ないだけでなく、平面形状が複雑なものが多い。その形状は地形に沿うように決定されている。したがって屋根形状も切妻屋根や寄棟屋根、方形屋根が組み合わせて使用されている。

“ 通常ブルドーザーを入れて整地してから建築にかかるものであるが、そうすると、切り盛りの汚い斜面が町に露出する。汚いばかりではなく、歴史的な地形が損なわれてしまう。私は高低差の激しい此処に、その地形のままで資料館を建て、地形を損なわないように道路の設計をしたのであるが、荒地の北斜面は見事な環境になった。”

養原敬・松隈洋・中島直人著『建築家 大高正人の仕事』（エクスナレッジ 2014 年 281 頁）

それに対して中期の作品には最も多くの正方形平面が採用されている。単純な平面形状の多彩な組み合わせによって、変化に富んだ空間形成を目指した。また、正方形平面が増えた理由として、モジュラープランニングを採用した作品が多いということがある。大高は従来のモジュラープランニングが空間を画一化していることを批判し、より高次の空間を群造形の考えから目指した。

“ モジュラープランニングが無性格な空間をつくって部分を殺すからこれを止めるのではなく、流動的な全体空間と部分をつなぎとめる一層高次のモジュラープランニングに発展させてゆかなければならないのである。部分が自由でありながら、全体の秩序に参加できる高次の関連システム（群造形）があれば、それが中心となり、部分はこれに従わなければならないのである。”

『新建築』（新建築社 1968 年 10 月号）

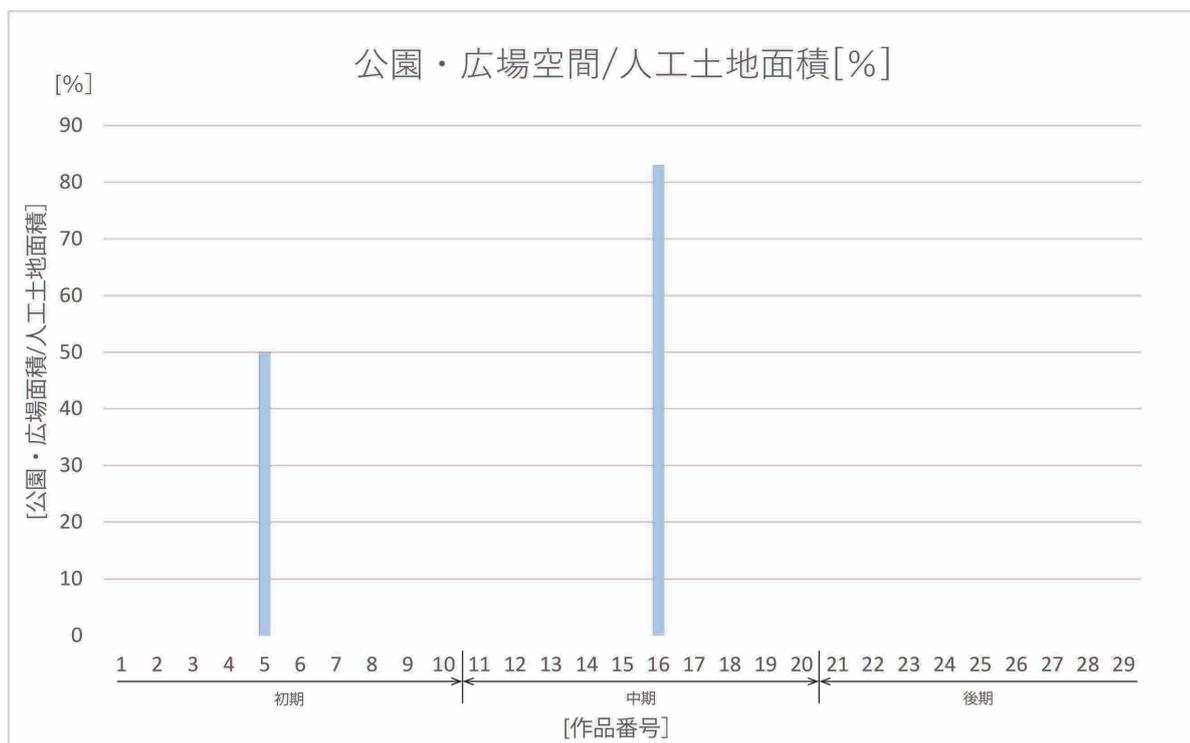
3. 2. PAUの実現作品とその手法の変遷(分析2)

Uが実現されている作品は14作品あり、その中で人工土地が採用されている作品は以下の2作品である。

No.5 坂出人工土地

No.16 広島基町団地

また、人工土地の上に広がる公園・広場空間の面積を比較すると、のちの作品の方がその割合が高いことがわかる。



大高にとって人工土地は土地問題の解決のための手段ではなく、本質的には「人間のための空間」の形成が目標であった。

“ 私は坂出の計画にあたって人工土地を土地問題の解決だけに使おうとしたものではない。前にも述べたようにこれを契機として都市空間の再編成と新しい造形を試みたのである。人工土地が目的なのではなく、人間のための新しい都市空間の創造が目標なのである。”

『新建築』（新建築社 1968 年 3 月号）

人工土地が採用されている 2 作品の人工土地面積を比較してみると、ほとんど変化がなかった。しかし、その人工土地の上に広がる公園・広場空間の占める割合が、広島基町団地の方が高いということが分かった。広島基町団地の人工土地は住棟から切り離され、その 8 割以上が公園・広場として利用されている。また、坂出人工土地の公園・広場空間は主に住人のためだけの空間であった。一方で広島基町団地の公園・広場空間は、住人だけでなく、隣接する小学校や幼稚園の子ども、それに加えて近隣住民も入ることが可能になっている。つまり、広島基町団地では、社会活動の中心的場となる「人間のための新しい都市空間」が実現されているといえる。

“ 小学校、商店、保育園、集会場、駐車場等々の都市的施設がこのように団地の中心的な位置にとられたオープン・スペースに計画的、集中的に配置できることは、団地住民にとって便利であるというだけでなく、大人数の住民にとって見通しのきくオープン・スペースであることから、団地住民のお互いの出会いの場を提供することにもなり、現代都市が次第に失いつつある住民のコミュニティ意識を自ずと育て、このオープン・スペースは基町団地の社会活動の中心的場となり、画的存在となるだろう。”

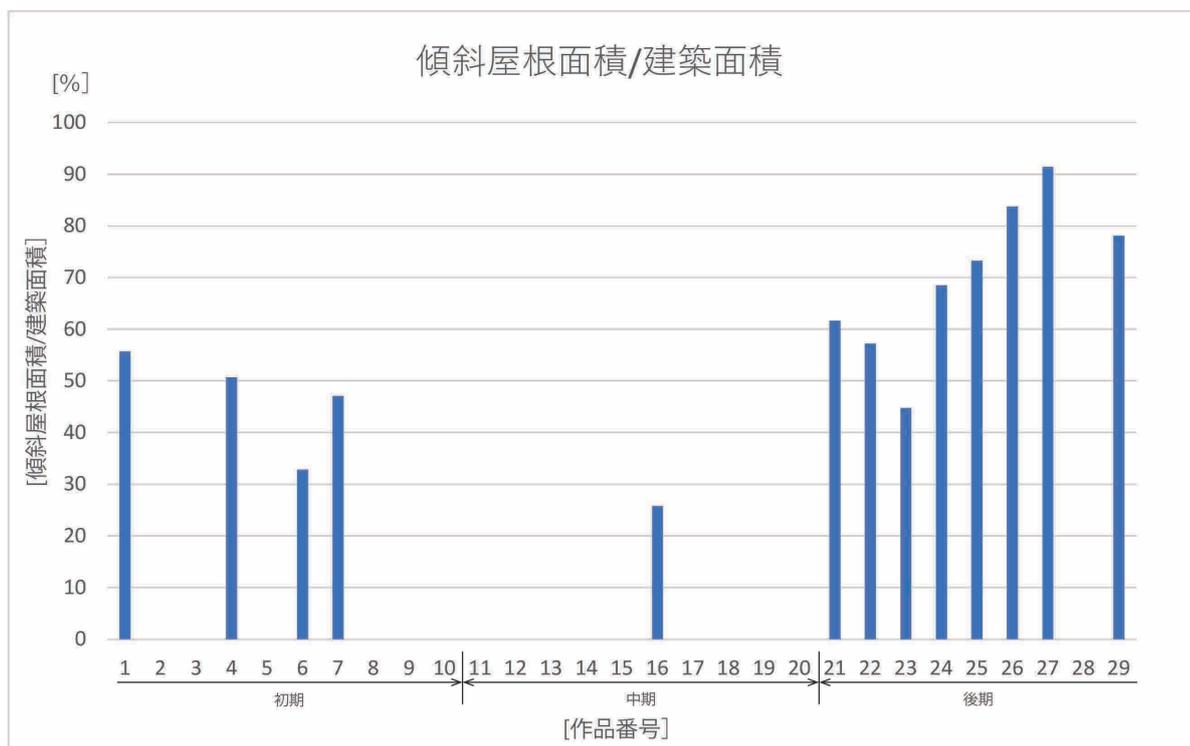
『都市住宅』（鹿島出版会 1973 年 7 月号）

3. 2. PAU の実現作品とその手法の変遷（分析 2）

U が実現されている作品の中で泳者屋根が採用されている作品は以下に示す 13 作品である。

- | | |
|-----------------|-------------------|
| No. 1 片岡農協 | No. 23 筑波新都市記念館 |
| No. 4 花泉農協 | No. 24 群馬県立歴史博物館 |
| No. 6 千葉県文化会館 | No. 25 洞峰公園体育館 |
| No. 7 立川幼稚園 | No. 26 福島県立美術館 |
| No. 16 広島基町団地 | No. 27 三春町歴史民俗資料館 |
| No. 21 千葉県立美術館 | No. 29 三春町交流館まほら |
| No. 22 岡谷市立湊小学校 | |

傾斜屋根は初期と後期に多く採用されているが、建築面積に対する傾斜屋根面積の割合は後期に増えている。



初期の傾斜屋根は、正方形平面が多いために方形屋根の作品が多く、その占める面積の割合が引く。一方、後期は切妻屋根や寄棟屋根の作品が多く、その占める面積の割合が高い。

1970年代に入り、大高は屋根をモチーフにした一連の建築を設計する。実際、後期の作品の9作品のうち、8作品が傾斜屋根をもつ作品であった。大高は後期に入ると、日本列島の風土や歴史ある部分である古建築に理想の造形を見出していた。

“ われわれが住んでいる日本列島の風土。歴史ある部分。我々の特徴ある体形。言語など。これらは、変わるものよりも、変わらない部分の方がはるかに多い。(中略)この現況の中では、我々の手にある遺産は、貴重な遺産なのである。風土も体形も言葉も、同じように資産なのである。その充実した姿は、日本の古建築の矩計と現代建築のそれをくらべて見ても明瞭である。”

『現代建築』(現代建築出版社1976年12月号)

そんな中、古建築の屋根に注目し、それを現代の技術で創造的に継承することを目標としていた。また、自然の地形や景観を保ちながら、それと連続するような建築を「風景となり得る建築」とした。

“ われわれに感動を与える昔の民家は現代と比べてはるかに貧乏なときに、(中略)金も技術もとにかくその地域にあらん限りの力を集めて、えらい苦心をして作ったわけです。われわれもそのような風景になり得る建築をつくっていかねればなりませんね”

『新建築』(新建築社1983年7月号)

後期の作品は次第に傾斜屋根面積の占める割合が高くなり、より地形や風景と連続する建築に近づいていったといえる。

3. 3. PAU の統合作品とその手法の変遷（分析 3）

PAU 概念を統合した作品を表 2 に示す。また P, A, U の要素が二つ以上統合している 12 作品を 4 つの型に分類した。表に統合が行われている作品を示す。

① A+U（方形屋根）型

初期において、A の正方形平面の反復と U の傾斜屋根の統合である方形屋根が採用されている 3 作品を以下に示す。

No. 4 花泉農協

No. 5 坂出人工土地

No. 7 立川幼稚園

② P+A 型

中期において、P のグリッドシステムおよび空中架構方式と立面のスラブ表現の統合であるプレグリッドが採用されている 4 作品を以下に示す。

No. 12 千葉県立中央図書館

No. 13 栃木県議会棟庁舎

No. 18 静岡農協センター

No. 20 日本大学生産工学部図書館

③ A+U（傾斜屋根）型

後期において、A の正方形平面と U の傾斜屋根の統合である傾斜屋根が採用されている 4 作品を以下に示す。

No. 21 千葉県立美術館

No. 23 筑波新都市記念館

No. 24 群馬県立歴史博物館

No. 26 福島県立美術館

④ P+A+U 型

29 作品において唯一 PAU 全ての統合が見られた作品を以下に示す。

No. 16 広島基町団地

3. 3. PAU の統合作品とその手法の変遷（分析3）

	No.	名称	年	PAUの統合			
				AU(方形)	AU(傾斜)	PA	PAU
初期	1	片岡農協	1961				
	2	全日本海員組合本部会館	1962				
	3	自動車労連会館	1963				
	4	花泉農協	1963				
	5	坂出人工土地	1965				
	6	千葉県文化会館	1965				
	7	立川幼稚園	1965				
	8	山内農協	1965				
	9	新居浜農協	1965				
	10	牧之原サービスエリア	1965				
中期	11	聖賢堂	1966				
	12	千葉県立中央図書館	1966				
	13	栃木県庁舎議会議棟	1966				
	14	南郷農協	1967				
	15	日産車体工機体育館	1967				
	16	広島基町団地	1968				
	17	日産自動車追浜工場体育館	1968				
	18	静岡農協センター	1969				
	19	自動車労連研修センター	1969				
	20	日本大学生産工学部図書館	1970				
後期	21	千葉県立美術館	1971				
	22	岡谷市立湊小学校	1972				
	23	筑波新都市記念館	1974				
	24	群馬県立歴史博物館	1975				
	25	洞峰公園体育館	1977				
	26	福島県立美術館	1980				
	27	三春町歴史民俗資料館	1981				
	28	神奈川県立近代美術館別館	1982				
	29	三春町交流館まほら	1999				

統合の手法の変遷を見てみると、初期には正方形平面の反復と、傾斜屋根の統合である方形屋根が多く採用されている。中期には、大量生産されたPC材と立面のスラブ表現の統合が多くなされており、組み合わせの多彩さが実現されている。後期には正方形平面が相対的に減っていき、複雑な平面形状に変わっていく。また、屋根も切妻屋根や寄棟屋根など、対称性の低い形状が多く採用されるようになる。

第4章

結論及び考察

4. 1. 結論

大高正人の言説と建築作品の図面を比較して以下3つのことを明らかにした。1)PAUのPはグリッドシステム、空中架構方式、ユニットシステムの3つ、Aは立面のスラブ表現と正方形平面の反復の2つ、Uは傾斜屋根と人工土地の2つによって実現される。(分析1) 2)Pの手法であるプレファブの使用される部材数は次第に減っていく。Aの手法である正方形平面は中期に多く採用されている。Uの手法である人工土地の上に広がる公園・広場空間の面積はのちの作品がその割合が高い。また建築面積に対する傾斜屋根面積の割合は後期に増えている。(分析2) 3)PAUの統合の手法はA+U(方形屋根)型、P+A型、A+U(傾斜屋根)型、P+A+U型の4つに分類することができる。(分析3)

以上より、大高正人の言うPAUの具体的な定義とその実現手法の変遷、そして統合手法の類型を明らかにした。

4. 2. 考察

若いころの大高正人はル・コルビュジエに心酔していた。それはル・コルビュジエに師事した前川國男の影響も少なからずあったのだろう。しかし、前川國男の設計事務所を辞め、自身の事務所を立ち上げる一年前である1960年に開催された世界デザイン会議にて、来日した世界の建築家から言われた手厳しい指摘が、大高にとって大きな意味を持つこととなった。

“「ルイ・カーンやポール・ルドルフやスミソンらが来て、ボくらに『日本の建築家は素晴らしい伝統があるのに、どうしてコルビュジエの真似ばかりするのか？』って、軽蔑に近い調子で言うんだよ。要するに、『お前らはコルビュジエの亜流だ』っていうわけ。ショックを受けたね。(中略)これが一つの転機になった”

蓑原敬・松隈洋・中島直人著『建築家 大高正人の仕事』(エクスマレッジ2014年267頁)

この出来事について、機会があるごとに何度も言及している。この経験から訳1年後、自身の建築事務所を設立する際に、PAU概念の実現を目標に掲げたことがこれと関係があるのかをしてみる。

“コルビュジエからの脱出は宗教を捨てるようなものであった。唯一の手掛かりは、川添さんたちの伝統と近代論の中にあり、その中から模索が始まった。(中略)手掛かりをまず大工棟梁の木造建築に求めた。その美しさ、技術の高さを目標に、これを近代のプレキャストコンクリートで実施しようと考えた。”

蓑原敬・松隈洋・中島直人著『建築家 大高正人の仕事』(エクスマレッジ2014年267頁)

“近代建築運動の類型的すぎた側面を補強するばかりでなく、現代社会の機構を全体像としてとらえる方法を完成させなければならない。私たちの提案する群造形は、こうしたデザインの両側面を統一するものとして、一つの有力な方法になるのではないかと考えている。”

蓑原敬・松隈洋・中島直人著『建築家 大高正人の仕事』(エクスマレッジ2014年267頁)

“私は、数年前から、斜めの屋根にとりつかれた。見てください。われわれの伝統の中にある、屋根の見事さ、街の見事さ。フラットルーフになってからの、われわれの建築の墮落。スカイラインの混乱。(中略)「フラットルーフを追放せよ」都市から、ごみ取りのような屋根を追放するのだ。”

『新建築』(新建築社1976年10月号)

これらの言説から、PAUの達成は近代建築をのりこえるための方法の一つであり、自身の建築事務所設立の際に、それを高い目標として宣言したと考察する。

参考文献

[参考文献]

- 1) 蓑原敬・松隈洋・中島直人『建築家 大高正人の仕事』クサナレッジ 2014 年
- 2) 栗田勇『現代日本建築家全集 18』三一書房 1970 年
- 3) 大高正人・川添登『メタボリズムとメタボリストたち』美術出版社 2005 年
- 4) 内井昭蔵『モダニズム建築の軌跡－ 60 年代のアヴァンギャルドー』INAX 出版社 2000 年

注

[注]

- 1) 蛭薙裕也『大高正人の千葉文化の森における外構計画に関する考察』日本建築学会大会学術講演梗概集 2011
- 2) 波利摩星也『大高正人の農村建築に関する研究』日本建築学会大会学術講演梗概集 2012
- 3) 林雄三『「人工土地」と「群造形」の関係にみる大高正人の建築作品の特質に関する研究』日本建築学会近畿支部研究報告集 2008
- 4) 伊藤優『大高正人の記述における「都市」の言説について』日本建築学会中国支部研究報告集 2017
- 5) 伊藤優『大高正人の記述における近代の「都市」について』日本建築学会学術講演梗概集（中国） 2017

謝辭

本研究にあたり、論文の方向性や分析の方法など、坂牛先生には多くの面で熱心なご指導を頂きました。心より感謝の意を表します。また、資料の収集方法や事務手続きにまで、大村総一郎さんと平田さんにはひとかたならぬお世話になりました。ありがとうございました。

論文を進めていくにあたって、丁寧にアドバイスを頂いた山口海さんを始めとする坂牛研究室に先輩方、同級生の皆様に深く感謝いたします。

本当にありがとうございました。

2019年11月17日 高瀬暁大

資料編

データシート

No. 1 片岡農協

施工年：1961年

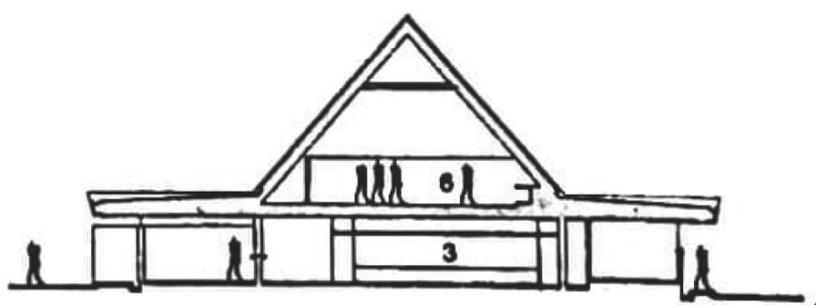
所在地：栃木県矢板市片岡

プログラム：農協建築

敷地面積：3113 m²

建築面積：307 m²

延床面積：392 m²



Pの分析結果

グリッド

—

空中架構

—

ユニット

—

Aの分析結果

立面

—

正方形

—

Uの分析結果

傾斜屋根

55.72%

人工土地

—



No. 2 全日本海員組合本部会館

施工年：1962年

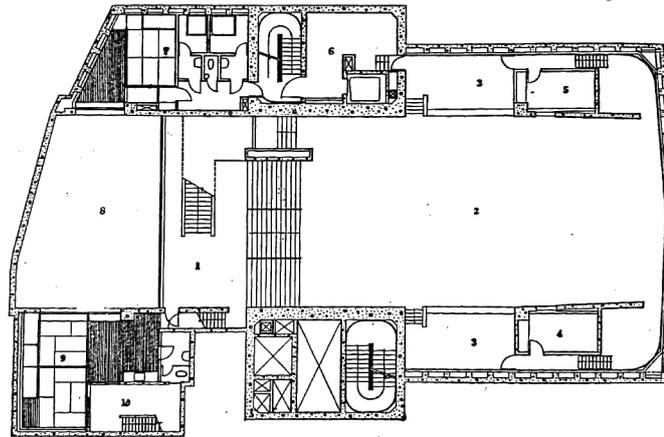
所在地：東京都港区六本木

プログラム：オフィス

敷地面積：1117 m²

建築面積：449 m²

延床面積：4139 m²



Pの分析結果

グリッド

—

空中架構

—

ユニット

—

Aの分析結果

立面

—

正方形

—

Uの分析結果

傾斜屋根

—

人工土地

—



No. 3 自動車労連会館

施工年：1963年

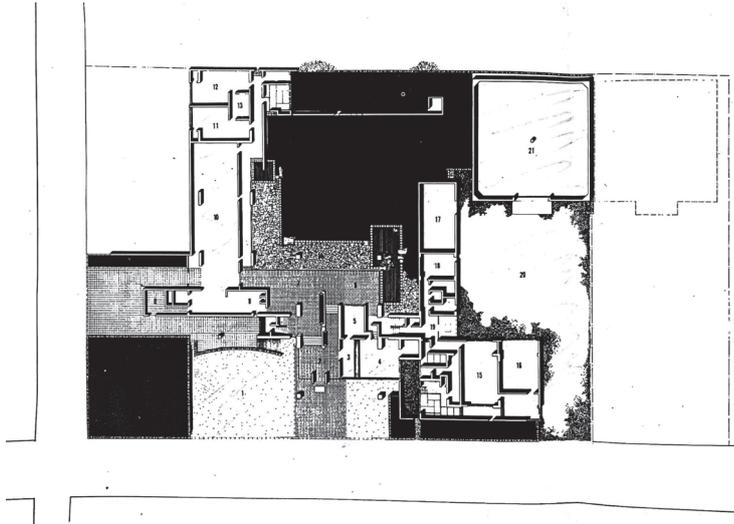
所在地：—

プログラム：オフィス

敷地面積：636 m²

建築面積：444 m²

延床面積：3728 m²



Pの分析結果

グリッド

—

空中架構

—

ユニット

—

Aの分析結果

立面

—

正方形

—

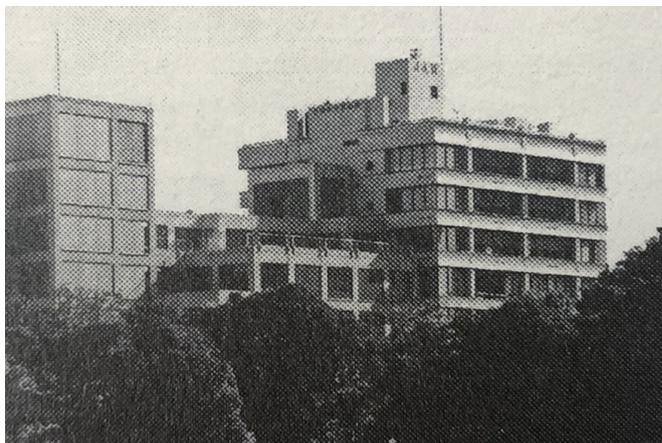
Uの分析結果

傾斜屋根

—

人工土地

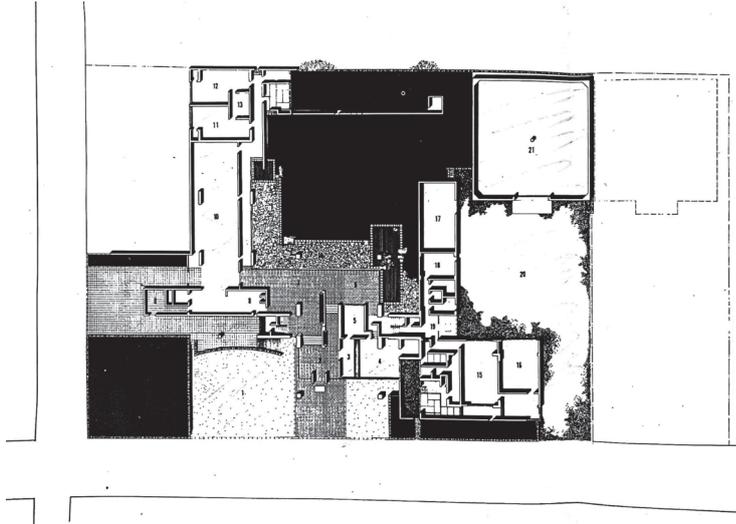
—



No. 4 花泉農協

施工年：1963年
所在地：岩手県一関市花泉町涌津
プログラム：農協建築

敷地面積：3370 m²
建築面積：1296 m²
延床面積：1799 m²



P の分析結果		A の分析結果		U の分析結果	
グリッド	—	立面	—	傾斜屋根	50.74%
空中架構	—	正方形	7	人工土地	—
ユニット	—				



No. 5 坂出人工土地

施工年：1965年

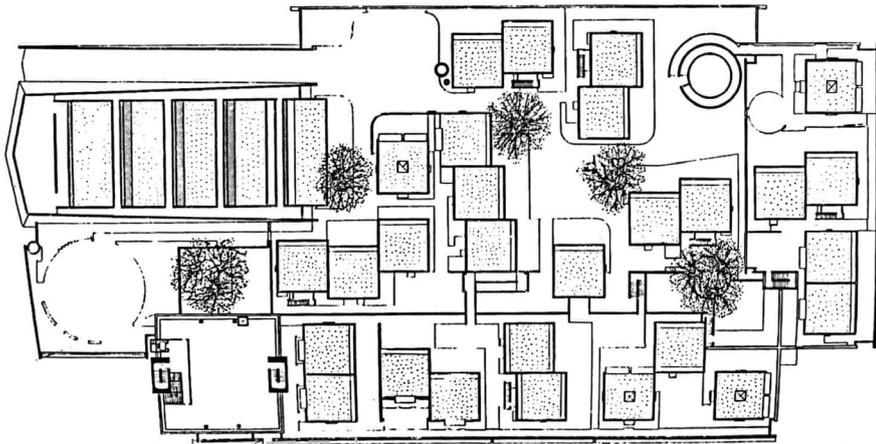
所在地：香川県坂出市京町

プログラム：集合住宅

敷地面積：12710㎡

建築面積：10800㎡

延床面積：5300㎡



Pの分析結果

グリッド

—

空中架構

—

ユニット

—

Aの分析結果

立面

—

正方形

28

Uの分析結果

傾斜屋根

—

人工土地

50%



No. 6 千葉県文化会館

施工年：1965年

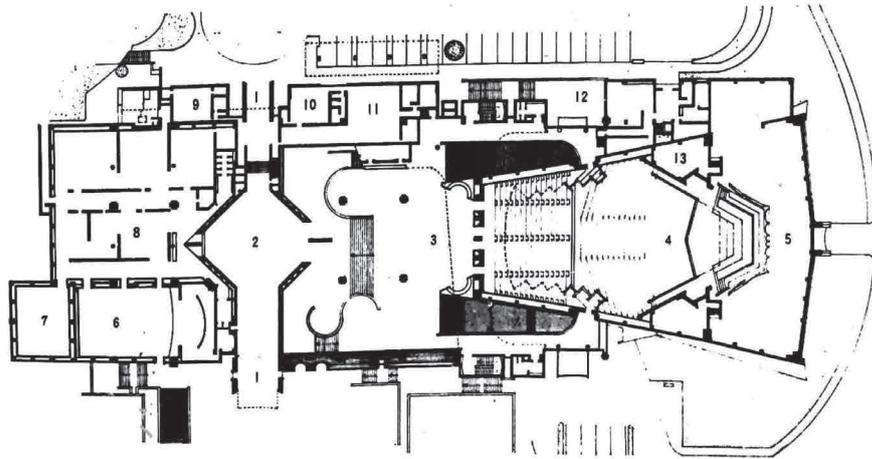
所在地：千葉県千葉市中央区市場町

プログラム：文化施設(ホール)

敷地面積：2500㎡

建築面積：600㎡

延床面積：1100㎡



Pの分析結果

グリッド —
空中架構 —
ユニット —

Aの分析結果

立面 —
正方形 —

Uの分析結果

傾斜屋根 —
人工土地 32.83%



No. 7 立川幼稚園

施工年：1965年

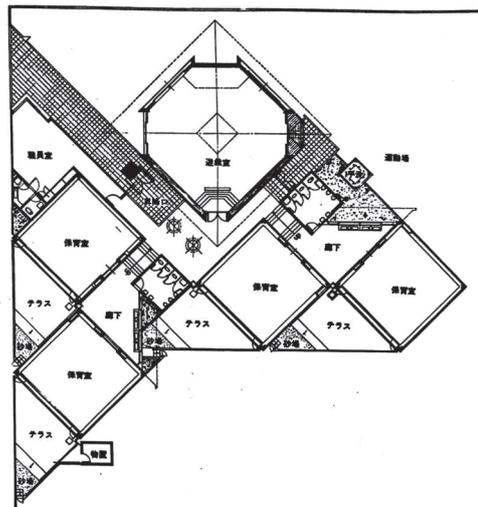
所在地：東京都立川市高松町

プログラム：幼稚園

敷地面積：6232㎡

建築面積：574㎡

延床面積：548㎡



Pの分析結果

グリッド —
 空中架構 —
 ユニット —

Aの分析結果

立面 —
 正方形 7

Uの分析結果

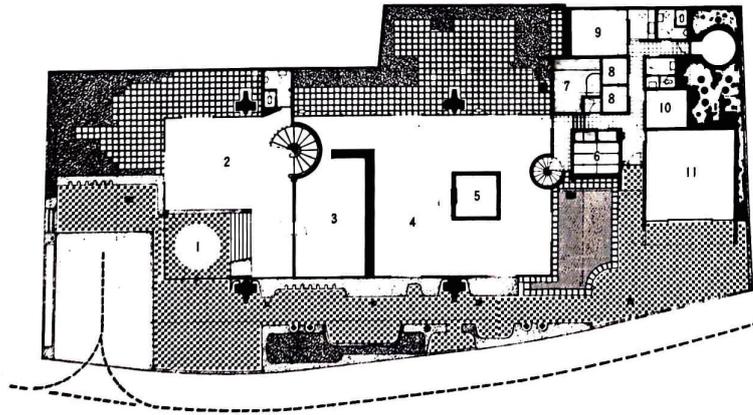
傾斜屋根 47.12%
 人工土地 —



No. 8 山内農協

施工年：1965年
所在地：—
プログラム：農協建築

敷地面積：1000㎡
建築面積：720㎡
延床面積：920㎡



Pの分析結果

グリッド —
空中架構 —
ユニット —

Aの分析結果

立面 —
正方形 —

Uの分析結果

傾斜屋根 —
人工土地 —



No. 9 新居浜農協

施工年：1965年

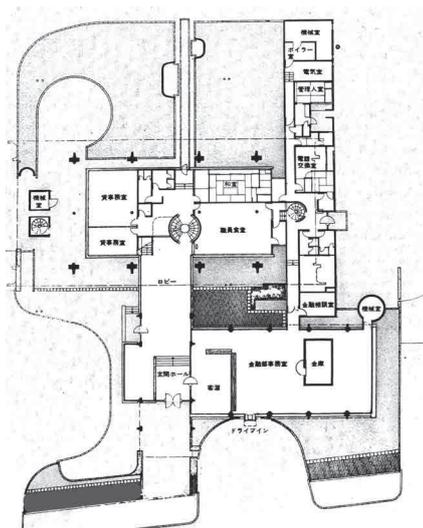
所在地：—

プログラム：農協建築

敷地面積：6436㎡

建築面積：1758㎡

延床面積：2188㎡



Pの分析結果

グリッド —
空中架構 —
ユニット —

Aの分析結果

立面 —
正方形 —

Uの分析結果

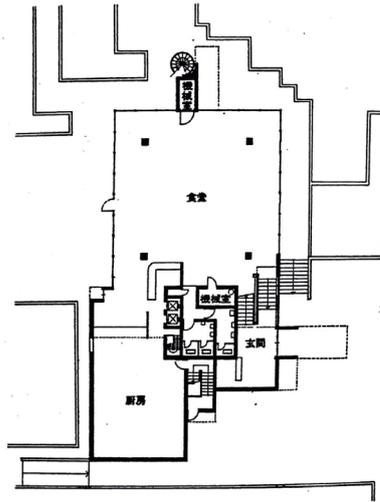
傾斜屋根 —
人工土地 —



No. 10 牧の原サービスエリア

施工年：1965年
所在地：静岡県牧之原市
プログラム：サービスエリア

敷地面積：—
建築面積：416㎡
延床面積：743㎡



Pの分析結果

グリッド —
空中架構 —
ユニット —

Aの分析結果

立面 —
正方形 —

Uの分析結果

傾斜屋根 —
人工土地 —



No. 11 聖賢堂

施工年：1966年

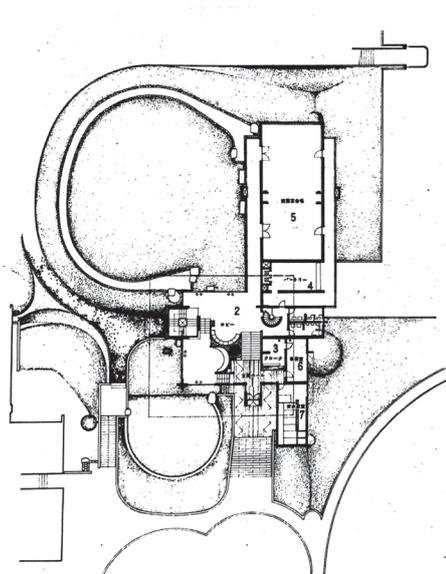
所在地：千葉県千葉市市場町

プログラム：結婚式場

敷地面積：25000㎡

建築面積：392㎡

延床面積：492㎡



Pの分析結果

グリッド

—

空中架構

—

ユニット

—

Aの分析結果

立面

—

正方形

81

Uの分析結果

傾斜屋根

—

人工土地

—



No. 12 千葉県立中央図書館

施工年：1966年

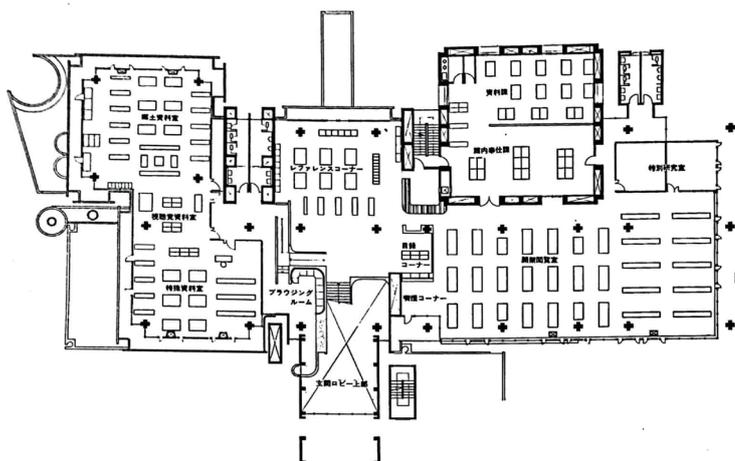
所在地：千葉県千葉市市場町

プログラム：図書館

敷地面積：5600㎡

建築面積：1977㎡

延床面積：4533㎡



P の分析結果

A の分析結果

U の分析結果

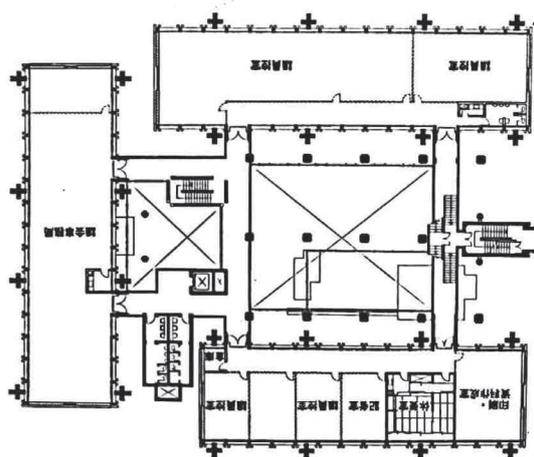
グリッド	559	立面	あり	傾斜屋根	—
空中架構	—	正方形	190	人工土地	—
ユニット	—				



No. 13 栃木県議会棟庁舎

施工年：1966年
 所在地：—
 プログラム：庁舎

敷地面積：—
 建築面積：2455㎡
 延床面積：4412㎡



Pの分析結果

グリッド —
 空中架構 564
 ユニット —

Aの分析結果

立面 あり
 正方形 —

Uの分析結果

傾斜屋根 —
 人工土地 —



No. 14 南郷農協

施工年：1967年

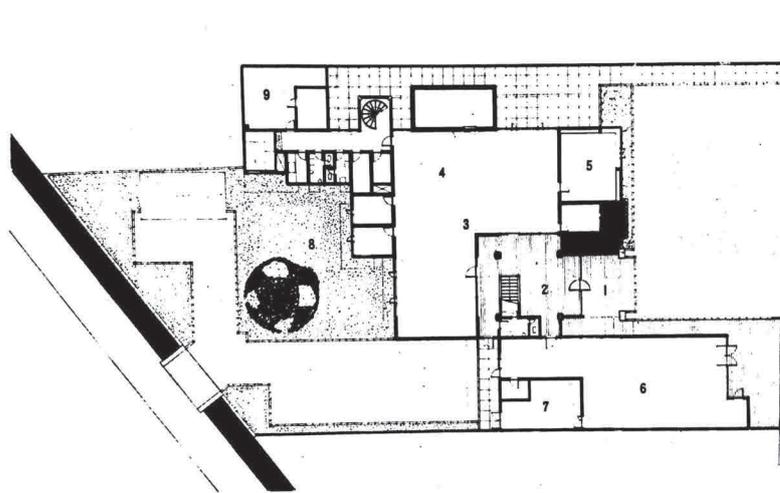
所在地：宮城県遠田郡美里町

プログラム：農協建築

敷地面積：1100

建築面積：691㎡

延床面積：951㎡



Pの分析結果

グリッド

—

空中架構

—

ユニット

—

Aの分析結果

立面

—

正方形

—

Uの分析結果

傾斜屋根

—

人工土地

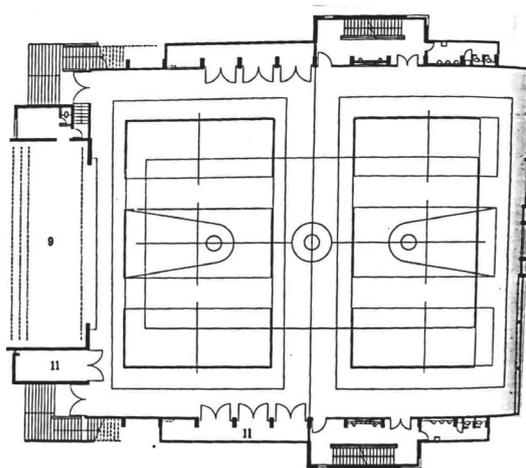
—



No. 15 日産車体工機体育館

施工年：1967年
所在地：—
プログラム：体育館

敷地面積：—
建築面積：1706㎡
延床面積：2706㎡



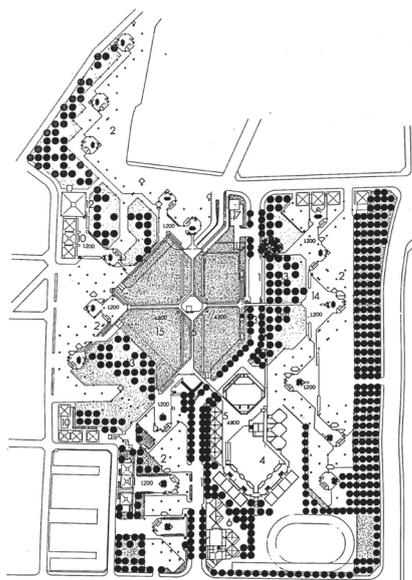
Pの分析結果		Aの分析結果		Uの分析結果	
グリッド	—	立面	あり	傾斜屋根	—
空中架構	—	正方形	—	人工土地	—
ユニット	—				



No. 16 広島基町団地

施工年：1968年
所在地：広島県広島市中区基町
プログラム：集合住宅

敷地面積：81100㎡
建築面積：26610㎡
延床面積：196570㎡



Pの分析結果

グリッド	—
空中架構	—
ユニット	12000

Aの分析結果

立面	—
正方形	159

Uの分析結果

傾斜屋根	25%
人工土地	83%



No. 17 日産自動車追浜工場体育館

施工年：1968年

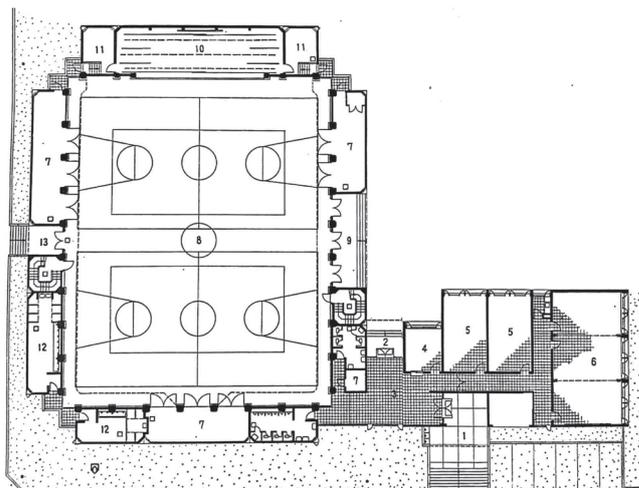
所在地：神奈川県横須賀市夏島町

プログラム：体育館

敷地面積：—

建築面積：1830m²

延床面積：1905m²



Pの分析結果

グリッド

—

空中架構

—

ユニット

—

Aの分析結果

立面

あり

正方形

—

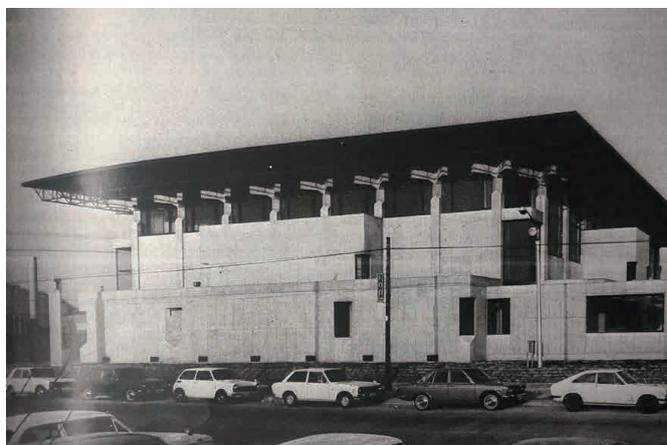
Uの分析結果

傾斜屋根

—

人工土地

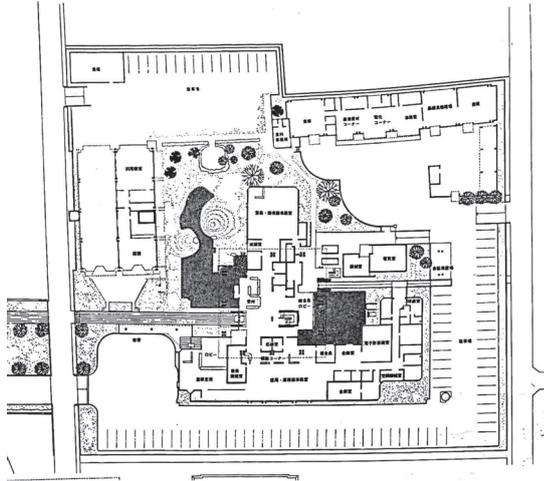
—



No. 18 静岡農協センター

施工年：1969年
所在地：—
プログラム：農協建築

敷地面積：10169㎡
建築面積：691㎡
延床面積：3419㎡



Pの分析結果

グリッド	450
空中架構	—
ユニット	—

Aの分析結果

立面	あり
正方形	135

Uの分析結果

傾斜屋根	—
人工土地	—



No. 19 自動車労連研修センター

施工年：1969年

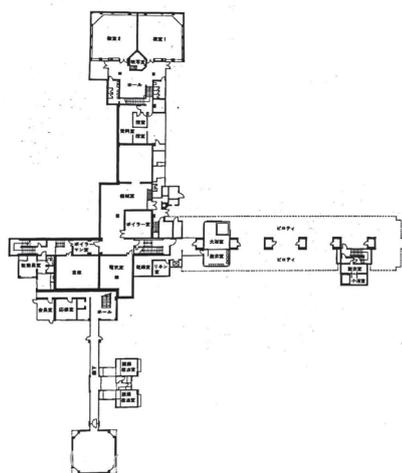
所在地：—

プログラム：研修センター

敷地面積：15847㎡

建築面積：2502㎡

延床面積：6027㎡



Pの分析結果

グリッド

—

空中架構

—

ユニット

—

Aの分析結果

立面

—

正方形

31

Uの分析結果

傾斜屋根

—

人工土地

—



No. 20 日本大学生産工学部図書館

施工年：1970年

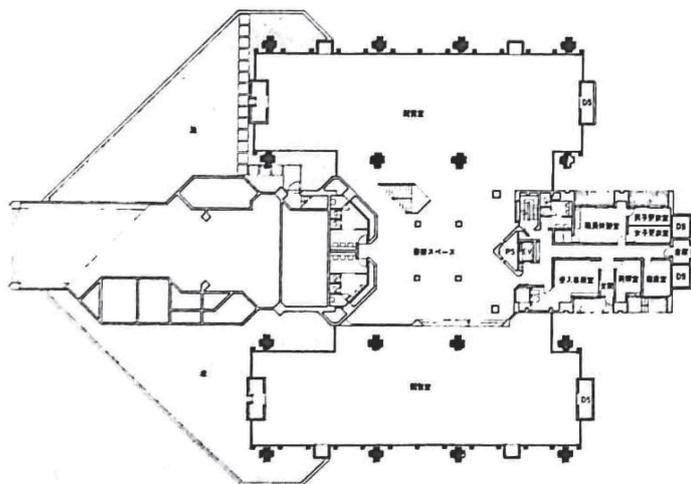
所在地：千葉県習志野市泉町

プログラム：図書館

敷地面積：5662㎡

建築面積：1711㎡

延床面積：5181㎡



P の分析結果

A の分析結果

U の分析結果

グリッド

—

立面

あり

傾斜屋根

—

空中架構

382

正方形

—

人工土地

—

ユニット

—



No. 21 千葉県立美術館

施工年：1971年

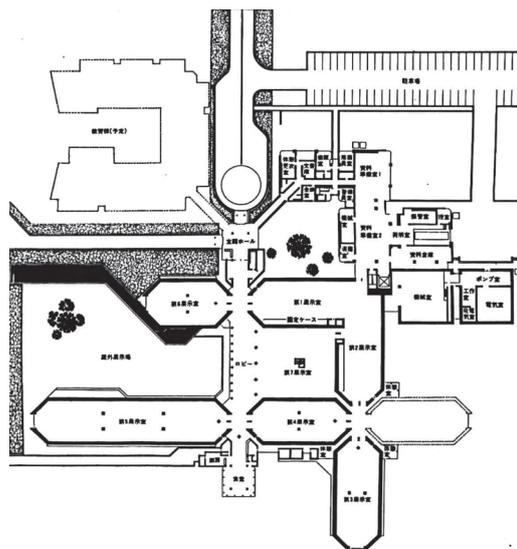
所在地：千葉県千葉市中央区中央港

プログラム：美術館

敷地面積：33057㎡

建築面積：6191㎡

延床面積：7469㎡



P の分析結果

グリッド

—

空中架構

—

ユニット

—

A の分析結果

立面

—

正方形

7

U の分析結果

傾斜屋根

61.64%

人工土地

—



No. 22 岡谷市立湊小学校

施工年：1972年

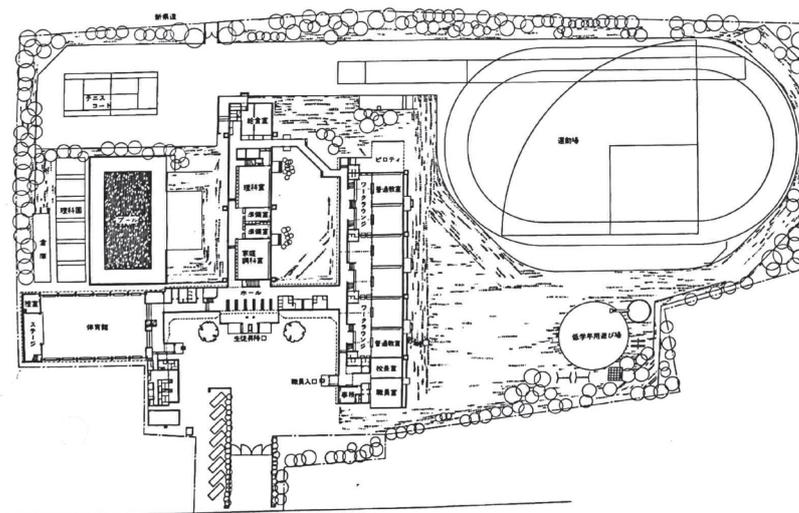
所在地：長野県岡谷市湊

プログラム：小学校

敷地面積：19844㎡

建築面積：3570㎡

延床面積：4387㎡



Pの分析結果

グリッド

—

空中架構

—

ユニット

—

Aの分析結果

立面

—

正方形

—

Uの分析結果

傾斜屋根

57.24%

人工土地

—



No. 23 筑波新都市記念館

施工年：1974年

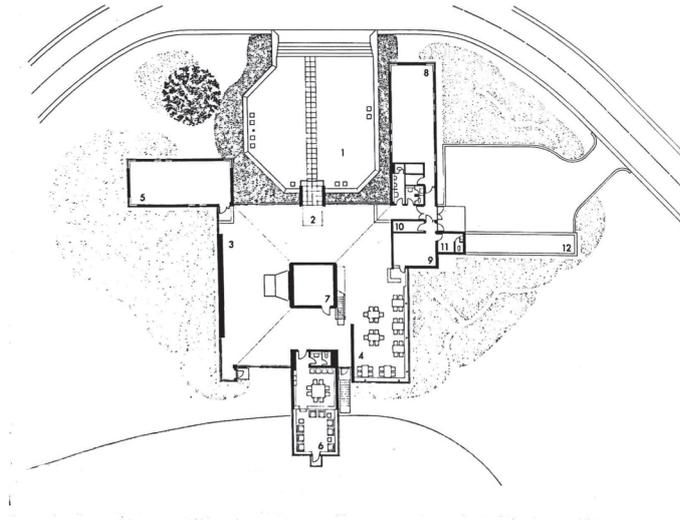
所在地：茨城県つくば市二の宮

プログラム：レンタルギャラリー&レストラン

敷地面積：2507㎡

建築面積：705㎡

延床面積：708㎡



Pの分析結果

グリッド —
 空中架構 —
 ユニット —

Aの分析結果

立面 —
 正方形 1

Uの分析結果

傾斜屋根 44.75%
 人工土地 —



No. 24 群馬県立歴史博物館

施工年：1975年

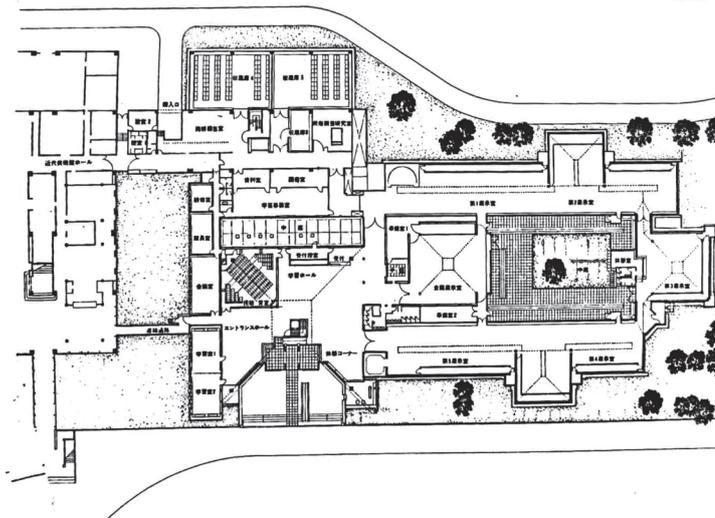
所在地：群馬県高崎市綿貫町

プログラム：博物館

敷地面積：11800㎡

建築面積：4921㎡

延床面積：7348㎡



Pの分析結果

グリッド

—

空中架構

—

ユニット

—

Aの分析結果

立面

—

正方形

2

Uの分析結果

傾斜屋根

73.32%

人工土地

—



No. 25 洞峰公園体育館

施工年：1977年

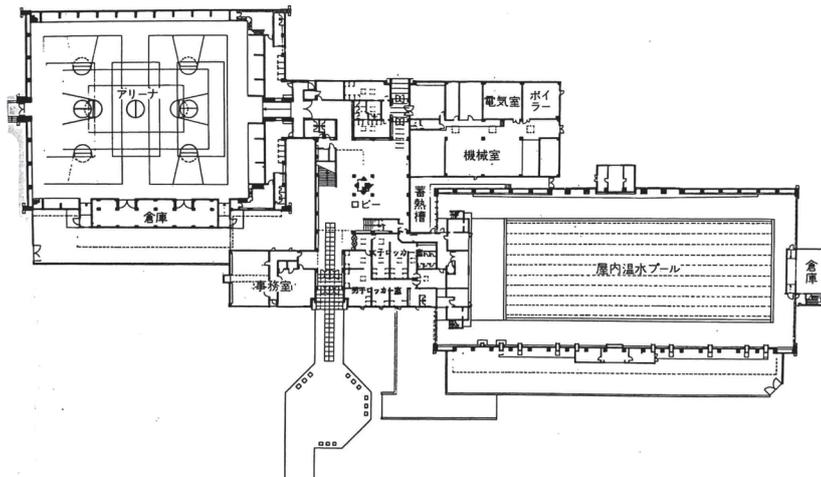
所在地：茨城県つくば市二の宮

プログラム：体育館

敷地面積：2000㎡

建築面積：6000㎡

延床面積：7000㎡



Pの分析結果

グリッド —
 空中架構 —
 ユニット —

Aの分析結果

立面 —
 正方形 2

Uの分析結果

傾斜屋根 68.5%
 人工土地 —



No. 26 福島県立美術館

施工年：1980年

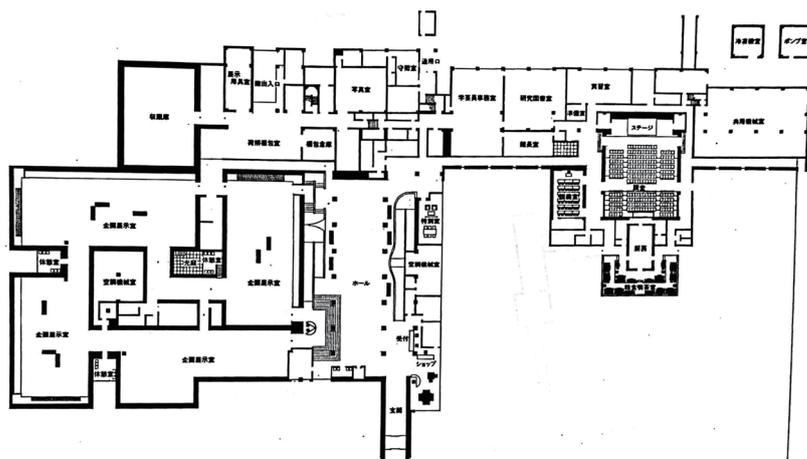
所在地：福島県福島市森合字西養山

プログラム：美術館

敷地面積：60500㎡

建築面積：6760㎡

延床面積：9879㎡



P の分析結果

A の分析結果

U の分析結果

グリッド	—	立面	—	傾斜屋根	83.76%
空中架構	—	正方形	1	人工土地	—
ユニット	—				



No. 27 三春町歴史民俗資料館

施工年：1981年

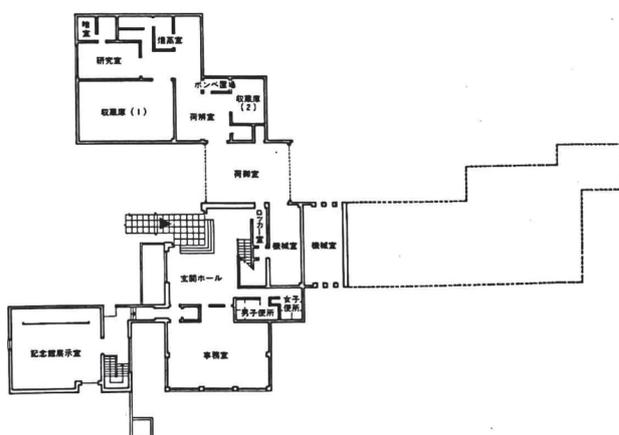
所在地：福島県田村郡三春町

プログラム：資料館

敷地面積：2908㎡

建築面積：1012㎡

延床面積：1459㎡



P の分析結果

グリッド

—

空中架構

—

ユニット

—

A の分析結果

立面

—

正方形

—

U の分析結果

傾斜屋根

91.42%

人工土地

—



No. 29 三春町交流館まほら

施工年：1999年

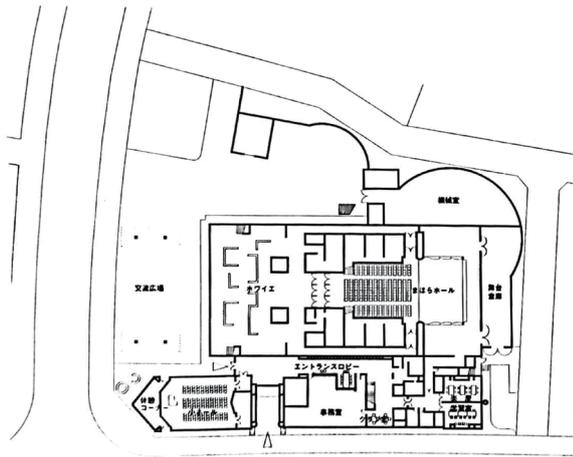
所在地：福島県田村郡三春町

プログラム：交流館(ホール)

敷地面積：4463㎡

建築面積：2434㎡

延床面積：3582㎡



P の分析結果

グリッド —
空中架構 —
ユニット —

A の分析結果

立面 —
正方形 —

U の分析結果

傾斜屋根 78.12%
人工土地 —



No. 29 三春町交流館まほら

施工年：1999年

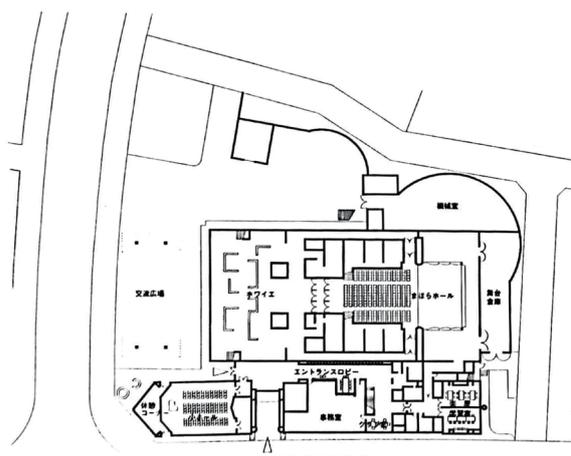
所在地：福島県田村郡三春町

プログラム：交流館(ホール)

敷地面積：4463㎡

建築面積：2434㎡

延床面積：3582㎡



P の分析結果

グリッド —
 空中架構 —
 ユニット —

A の分析結果

立面 —
 正方形 —

U の分析結果

傾斜屋根 78.12%
 人工土地 —



